

資料編(1)

1. 災害ボランティア活動リーダーの心得 ……2
発災から数か月経つと、自然発生的にボランティアリーダーたちが誕生した。彼らがみずから作成した、リーダーを務めるためのマニュアル。
2. 帳票・報告書書式見本 ……7
日々の活動に用いた帳票や報告書。どのような帳票によって活動や資材が管理されていたかの参考のために。
3. 対応不能ニーズ一覧 ……9
被災者から要請があったものの、諸般の事情により対応できなかった案件のまとめ。実際の不対応件数はこの表の倍程度あったものと推測される。ボランティアを待ちきれず自力で解決したケースがかなりあったようだ。
4. 宮城県内におけるボランティア受け入れ状況一覧 ……12
発災から1年半後、平成24(2012)年9月時点での宮城県内のボランティアセンター活動状況を参考までに収録する。
5. 七ヶ浜町ボランティアセンターへの応援派遣職員数並びに支援活動内容 ……14
全国の社会福祉協議会のうち、中国・四国ブロックより応援職員が派遣された。発災時にすばやく活動の基礎作りに尽力された、25クルールにおよぶ派遣元の内訳と派遣職員の名簿を掲載。
6. ボランティアセンター スタッフの変遷(町内スタッフ) ……16
ボランティアセンター立ち上げからのスタッフ名簿。社協事務所だけでなく震災前からの登録ボランティアや常駐スタッフの移り変わりを図解。
7. 余剰資器材の最終振り分け先 ……17
ガレキ撤去等の作業活動がある程度終息にともない、平成24(2012)年10月、保有していた資器材の有効活用を図るために各所に移譲。その内訳。
8. 継続ボランティアのライフスタイルに関するアンケート項目(全文) ……18
記録を作成するにあたり、継続ボランティアの方々にお願ひしたアンケート項目の全文。本編、第7章で紹介。
9. 継続ボランティアのライフスタイルに関するアンケート回答(自由回答分すべて) ……21
上記アンケートのうち、自由に回答できる質問項目に寄せられた回答のすべてを紹介する。

1. 災害ボランティア活動 リーダーの心得

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得



※この冊子を渡された方はリーダー名簿に記載されます。

No. _____

氏名	
----	--

災害ボランティア活動 リーダーの心得

= 第1版 =



作成／リーダー経験者一同
配布／七ヶ浜町災害ボランティアセンター
090-6853-4490

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

《前書き》

災害ボランティアセンターでのボランティア活動は、ニーズの数だけ様々です。

2人～数人の友人同士で活動することも、数十人～100人規模で様々な団体・個人と一緒に活動することもあります。

どんな活動にも必ずリーダーが設定され、リーダーには活動の説明や安全管理、現場での判断、活動後の報告が求められます。

限られた人数で運営している災害ボランティアセンター(以下「ボラセン」)の運営スタッフが、全ての活動を見守ることができないための、ボランティア活動ならではの運営手法です。

この冊子はボランティア活動で初めてリーダーを務める方へのマニュアルです。

全てを網羅しているわけではありませんが、少しでも有意義な活動につながればという想いで作成しました。

是非、ご一読ください。



■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

《初めてのリーダーの方へ》

リーダーは、慣れた人が事前に連絡されて、十分な心の準備ができる場合もあれば、未経験者が急に依頼されることもあります。

未経験の方が急にリーダーを依頼された場合、非常に戸惑ってしまうと思います。

もしかしたら、まさに今、この文章を読んでいるあなたがそう思っているかもしれませんね。

でも、心配ありません！

このマニュアルを一度だけ、じっくり読んでください。10分間で読めるはずですよ。

全部覚える必要はありません。読むだけでもいいのです。実際の活動で思い出したことだけ実行してください。それだけで結構です。

何から何まで上手に行うリーダーは、ほとんどいません。だから失敗や反省はつきものです。

ボラセンのスタッフは、それを解った上で、あなたにリーダーをお願いしているのだと思います。

気負わずに、自分らしく、チームを有意義な活動に導いてください。

きっと素晴らしい経験になると思います。

作成者一同より

ニーズに真剣に向き合い、お役に立ち、
また、楽しく安全に活動しましょう。

1. 誰のためのボランティア？

④ 活動の目的と目標

ボランティア活動の目的は、主に地域住人の方のニーズに応えることです。

決して、自分たちの達成感のためだけに行うものではありません。

しかしながら、自分たちも楽しみながらボランティア活動を行うことは、非常に良いことです。

ニーズに真剣に向き合い、お役に立ちながら、楽しく安全に活動することが理想です。

その活動が良い思い出になれば、更に素晴らしいことだと思います。

ニーズ主の方、地域の方々、我々ボランティア、そして活動を支援してくれる全国の方々が、全員ハッピーになれる活動を心がけ、目標としましょう。



センターなどで催されるイベントでは積極的に楽しんでください！

ボランティア全員の安全確保が最優先
です。ニーズよりも大切なことです。

1. 優先事項

④ 安全確保

ボランティア全員の安全確保が最優先です。

わたしたちの安全が確保されて、はじめて、有意義な活動ができます。

安全を脅かすものは、主に以下の3点です。

「釘の踏み抜きなどのケガ」
「熱中症」
「地震・津波」



この3点については必ずチーム全員に周知してください（後述のp.12「作業までの流れ④」参照）。

④ 不適正ニーズへの対応

「危険作業」にも注意してください。

ニーズ主の方の要求に盲目的に応えるのではなく、明らかに危険な作業は、運営スタッフに電話して判断を求めましょう。

その場の判断で何らかの約束をすることは、ニーズ主の方に期待を持たせてしまうこととなりますので、控えてください。

ニーズに全て応えたい気持ちは誰にでもあります...

時には断る勇気も必要です。

リーダーは、サボっているように見えても、
我慢して作業をしないようにしよう！

1. リーダーの心得

④ 監督責任

初めてリーダーになった方は、メンバーの誰よりも働かず、と意気込むことが多いようです。

実は、その逆です。

ボラセンがリーダーに求めているのは、誰よりも作業をしないで、周りを見渡すことです。

何か気になる作業があっても、その作業にリーダーが夢中になって取り組んではいけません。

そんな時に誰かがケガでもしたら、誰かが熱中症で倒れたら、非常に残念なことです。

必要なことはチームの誰かにお願いし、リーダーは「ちょっと手伝う」程度に作業してください。

お願いするのに慣れていない方は、今日、慣れてください。

「サボっているように見えないかな？」とか、「えらそうに見えないかな？」と心配になるかも知れません。

でも、むしろ、あまり作業していないほうが、安心感を持ていただけるようです。

また、自主的に作業するより、明確に指示されたほうが嬉しいという人がたくさんいらっしゃるようです。

経験者が語る便利なテクニック。
「作業編」、ご参考まで。

1. 息抜きコラム

様々なテクニック①作業編

サブリーダーの設定

チーム人数が多いと、一人では注意が行き届きません。そのような時は、勝手にサブリーダーを設定しましょう。意識が高い方が多いので、そのような役割がお好きな方が必ずいらっしゃると思います。

背中にもネームテープ

ボラセンでは、受付時に胸にガムテープでお名前を明記していただいています。リーダーに限らず、背中にも貼ると便利です。後ろからでも名前が見えるため、しゃがんだ作業をしていて顔が見えなくても、背中のネームテープで、名前で声を掛けられるからです。

作業が早く終わったら...

作業が思ったより早く終わったら、七ヶ浜をご案内するのはいかがでしょうか？初めて来られた方に、是非、菖蒲田浜の美しさを知っていただきたい！また、他のチームの応援に参加するのもよい判断です。

チームへのサービス精神も大事

ボランティア活動は、わたしたちの達成感のための活動ではありませんが、作業を通じて結果的に楽しめれば、それは素晴らしいことです。チームの皆さんを楽しませるマネジメントを心がけましょう。その結果、また七ヶ浜で活動したい、今度は遊びに来たい、と思っていただければ、とても嬉しいことです。

ポイ捨てへの注意

被災地は日常風景ではないため、感覚がマヒしてしまいがちです。普段は絶対にしないタバコなどのポイ捨てを、ついやってしまう方がいらっしゃいます。そのような場面を目撃してしまった時、リーダーの立場としては、見て見ぬ振りを決め込むことができません。残念ながら直面してしまった時のため、あらかじめセリフを決めておく、きちんとした注意ができます。「ゴミを拾いに来てるんですから、ポイ捨てはやめましょう。笑顔で、小さな声で注意しましょう。」

マッチングの場で、出発までの段取りを運営スタッフと作り上げます。

1. 出発までの流れ①

① 運営スタッフとの共同作業

リーダーに任命されたら…

携帯電話に090-6853-4490を入力

ボラセンの電話番号です。何かあったらすぐにTEL!

スタッフの説明を聞く、ニーズ表をよく読む

わからないことはあせらず質問すること。
出発が少しぐらい遅れても、誰も気にしませんよ。
この時、今日の活動の目的(意義)を把握しておくこと。

移動手段と方法を把握する

団体バス1台だけのチームもあれば、自家用車数台のチームもあります。
複数台のチームの場合、台数を把握して、出発の際にきちんと数えましょう。

メンバーに自分の顔と名前を覚えてもらおう

「〇〇市の〇〇です。この顔を覚えてください！」と、照れずに大きな声で言いましょう。
チームの全員が、「自分のチームのリーダーは〇〇さんです」と答えられるようにしてください。
ニックネームでもいいんですよ!



マッチング後はリーダーの腕の見せ所。段取り八割を意識しましょう。

1. 出発までの流れ②

① リーダー中心活動開始

…これからはリーダーがチームをマネジメントします

資材の準備の段取りをする(しておく)

資材表に必要な資材数を記入しましょう(この作業はマッチング前に済ませておく就非常スマートです)。

簡単なオリエンテーションをする

簡単な自己紹介と、本日の作業内容を簡単に説明しましょう(詳しい説明は現場に着いてからで充分です)。持ち物の確認をしましょう(詳しくはボラセン内のポスター『ボランティアマニュアル』参照)。最後に、現場までの移動方法と出発時間を10分後を目安に伝え、出発に備えましょう。

資材を準備する

資材の準備がまだなら、上記説明の時に数人の方に「資材準備を手伝ってください」と声を掛けましょう。自分で準備せず、資材表を読み上げて、メンバーに準備してもらってください(自主的に参加されたボランティアさんです。遠慮せずにどんどん指示してください)。資材係に控えの提出を忘れずに!

出発

定時になったら、台数を数えて、置いてきぼりのないように出発しましょう(集合場所を決めておくのも便利)。

作業に入る前に、目標と目的(意義)、安全確保の留意点を説明します。

1. 作業までの流れ①

① 現地作業開始必須事項

作業現場に着いたら…

駐車スペースの確認、全員を現場に誘導

現場に着くまで、どのような地域かわからないのはよくあることです。適した駐車スペースに車輛を止めて、迅速にチームを誘導してください。
草むらなどの危険な場所は通らず、道路を歩くこと!

現場確認

現場がニーズ表の記載内容と印象が違うことはよくあることです。
チームの人数や顔ぶれを見て、独断と偏見で、どこまで作業できそうか、勝手に大まかな目標を立てましょう。

作業説明

最低でも、以下の3つの点を説明する必要があります。
『作業内容と目標』 p.10参照
『作業の目的(意義)』 p.11 "
『安全確保の留意点』 p.12 "
勝手に作業を始めてしまう方もいます。
まずは大声で『集合してください』と呼びかけましょう。少し高い位置(何かの上)に乗ってお話すると、周知しやすいですよ。

目標を明確にすることで、皆さんが効率を考えた作業をしてくれるようになります。

1. 作業までの流れ② 目標

① 作業内容と目標

作業時間は限られています。
目標を立て、計画を立て、進行管理しましょう。

◆目標の説明例

今日の作業は、津波で流出してしまった家屋の、残された基礎と庭の清掃です。

コンクリート基礎に残った木材をパールなどで剥がして、こちら辺に集めます。

庭だったところは、大きなガレキを分別してここに集めます。また、細かいガレキやガラス片をレーキで寄せ集めて(やってみせる)、スコップで土のう袋に入れ(やってみせる)、口をしっかり縛って(やってみせる)、ここに集めます。

最後に仕上げとして、デッキブラシでコンクリートや玄関だったところの土や埃を取り除きます。
わからないことがあれば、作業中にわたしを呼んでください。

作業目標は、「まるで、これから家を建てる「建て前」のように、きれいな庭ときれいな基礎にする」ことです。

この現場は今日で3日目、人数も30人なので、本日で完了したいと思っています。

午前中の作業は11:40を目安にします。
お昼は一旦ボラセンに戻り、午後は〇時〇〇分に集合して…

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

意義のある作業だと理解すれば、取り組みの意識が高まり、達成感につながります。

Ⅰ. 作業までの流れ③ 目的(意義)

🏠 作業の目的(意義)

目的を明確にすると、皆さんの士気が上がります。意義のある作業だとご理解いただくことが大切です。

◆ 目的の説明例

この作業は非常に意義のあることです。理由は3つあります。

①衛生面の意義 ②都市景観の意義 ③家主さんの元気作りです。

《衛生面》

放っておくと虫やそれを食べるネズミが発生して不衛生になりますので、それを防ぎます。

《都市景観》

七ヶ浜町がどんどんきれいになっていくことで、町民の方が元気になる、訪れる人も多くなると思います。

《家主さんの元気作り》

大事な自宅だったにもかかわらず、津波被害の傷跡を直視できない、震災後一度も帰っていない、という方が大勢いらっしゃいます。清掃することで元気になり、跡地に花を植えたり、家を建て直そうと思ったりしてくれる方がたくさんいます。非常に喜んでいただける作業なのです。

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

安全確保はリーダーの最大の仕事です。しつこいくらいアナウンスしましょう。

Ⅰ. 作業までの流れ④ 安全

🏠 安全確保の留意点

活動の最優先事項は、安全に作業することです。特に注意すべき3点は必ずアナウンスしてください。

◆ 安全の説明例(全ての野外活動に共通しています)

★釘の踏み抜きなどのケガに注意!

(草むらに一歩大きく踏み出して見せて)このように歩くと、もしかしたら、木材に残った釘を踏んでしまうかもしれません。少しでも出血したら、病院で破傷風の予防注射を射ってもらうことになります。草むらでは、このように(すり足で歩いてみせる)慎重にゆっくり歩いてください。万が一怪我をしてしまった場合は隠さずに申し出てください。

★熱中症に注意!

わたしが20分おきくらいに「休憩!」と大きな声で叫びます。聞こえた方は、「キリのいいところまでやらずに」すぐに休んでください。もし作業を続けていたら、ピピーツと笛鳴らします(笑)。また、休憩時間以外の休憩は、大歓迎です。のんびり作業しましょう!

★地震・津波への対応

地震を感じたら、すぐに「地震だー」と騒いでください。作業中だと地震は感じづらいようです。すぐに車のラジオなどで注意報・警報を確認します。もし発令されても、慌てずにポラセンに戻ります(orあの高台に避難します)。落ち着いて避難します。

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

自分のチームをよく観察し、意識して名前を呼んで、積極的に声掛けしましょう。

Ⅰ. 作業中の留意点①

🏠 チームワーク向上施策

ボランティアは、自分も含め、全員が作業の主役です。

作業開始の号令



「それでは、トラックから機材を降ろし、作業を開始してください。今日も一日、よろしくお願いします!」作業は、細かく分担するより、各々に好きなことを始めてもらったほうがはかどるケースが多いと思います。修正はいくらでもできますので、まずは全体の動きをよく観察しましょう。

声を掛けよう!



団体でも個人でも、初顔合わせの集団であることがほとんどです。意識的に名前を呼んで、積極的に声掛けするだけで、チームワークが格段によくなるようです。

《例》

「〇〇さん、東京からですか!」「〇〇さん、その作業はキリがないので、午後に余裕があったら取り組みましょう」「〇〇さん、体力ありそうですね、土のう袋運び隊に任命してもよろしいでしょうか?」「〇〇さん、剣スコップは小さいほうが(実際にやって見せる)片手でも使えて便利です。はいこれ使ってください!」「〇〇さん、疲れませんか?そうですか、大丈夫ですか。でもわたしが疲れたので休憩します。『休憩ー!!』」「〇〇さん、今日は人数が多いので、サブリーダーをお願いしてもいいですか?実はひとりだと心細くて...」「サブリーダーの〇〇さん、早速ですがあそこの方々に土のう袋の結び方をアドバイスしてきていただけませんか?」「〇〇さん、基礎だけの家で、玄関は家の顔なので、最後にピカピカに磨いて終わりたい!」etc...

■ 災害ボランティア活動 リーダーの心得

写真撮影はいいの?差し入れはもらう?現場は判断に迷うことがたくさんあります。

Ⅰ. 作業中の留意点②

🏠 現場判断基準(例)

いろいろなテーマがあり、正解はありません...

写真撮影というテーマ

リーダーとして誰でも直面するのが、現場での写真撮影です。ここは観光地ではなく被災地です。地元の方のとしての思い出の場であり、残念ながら悲しみの場でもあります。

リーダー一同の意見として、写真撮影は原則的に禁止したほうが良いと考えます。

もし、活動報告などで必要な場合、リーダーに申し出てください、とアナウンスしましょう。

《参考》

OK:センター内で和気あいあいとした記念撮影
NG:瓦礫の山をバックに笑顔とVサインで撮影



家主さんからの差し入れというテーマ

ねぎらいの意味でジュースやお菓子などの差し入れをいただくことがあります。そのようなご好意には、感謝の気持ちを忘れず、喜んで甘えてもよいと考えます。

一方、中には「お遣い」と、現金をこっそり渡そうとなる方もいらっしゃいます。

このような場合は、きっぱりと断ってください。

リーダーだからといって、他のメンバーより偉いわけではありません。

1. 作業中の留意点③

🍷 リーダーの分掌

みんなの意見を聞きましよう

作業方針が食い違った場合

ボランティアに参加する方は、ほとんどの方が、非常に意識の高い考えをお持ちです。時には、作業内容への疑問、作業方法の否定、「ボランティアとは？」と議論を挑んでくる、などに直面するのもしリーダーです。

リーダーは、便宜的にその役割を担っているだけで、それが職業でもなければ、何らかの義務があるわけでもありません。チームに対して権力があるわけでも決定権を有しているわけでもありません。

それはチームの一員でも同じです。

やり方や考え方は異なっても、「想いはひとつ」で集まっているのがボランティアセンターです。

様々な意見は、きちんと伺い、それについてしっかり検討することも重要です。

違法な行為や危険作業でない限り、リーダーの方針と食い違う作業を行う方へも、寛容な気持ちを持ってよいと考えます。

みんななかよくね♪



終了時間にどこまで終わらせるのか、イメージを持って作業調整しましょう。

1. 作業終了1時間前に

🍷 進捗判断と作業調整

せっかく作業に慣れてきたところに、作業終了の時間が迫ります

目標、計画に対する進捗判断

↓ 午後の作業のちょうど半分の時間を目安に、作業面積などを見て、同じペースで行った場合、終了時間に目標に到達できるのかどうかを判断しましょう。

① 作業調整(進行が早い場合)

➡ 目標以上の作業に取り組むという判断があります。例えば、本来であればボランティアの仕事ではない草刈作業などに、当たり障りない範囲で取り組みましょう。

② 作業調整(進行が遅い場合)

➡ 継続案件と割り切って、途中で作業を終了するという判断で問題ありません。もし、何らかの事情で本日中に終了したいのであれば、「少々仕上がりに見劣りがしても、ペースアップをお願いします!」とアナウンスしましょう。午後は作業に慣れてきて、倍のペースではかどっている場合もあります。諦めかけた現場でも、終了時には、当初の目標どおりに仕上がる人が多いような気がします。

注意! 終了時間は必ず守ってください。

長い一日が終わります。大変だったけど、またやりたいなあ、と思うはずですよ!

1. 作業終了時の心得

🍷 作業終了時必須事項

機材数のチェック、全員がボラセン帰還、機材洗浄

機材数のチェック

↓ 機材を一箇所に集め、チェックします。トラックに運ぶまで、全て誰かにお願ひしましょう。紛失物があれば一歩懸命探しましょう。

セレモニー(余裕があれば)

↓ 「作業終了、解散」だけでも結構ですが、もし余裕があれば、締めセレモニーを行うのもよいですね。自分あまりしゃやりに出ず、サブリーダーの方などに「一言!」とその場でお願ひすると、咄嗟ながらもよい挨拶をしてもらえることが多く、達成感が生まれます。

機材返却・活動報告(借りた書類は全て返却!)

↓ ボラセンに帰ったら、メンバーに機材の洗浄をお願いします(もちろん、一緒に作業しても結構です)。活動報告書に、継続か終了かを忘れずに記入し、運営スタッフに活動報告を行えば、長い一日の終了です。ニーズ主の方、ボラセンスタッフ一同、チームメンバー、全員があなたに感謝していることでしょう。

本当にお疲れ様でした!

経験者が語る便利なテクニック。「むむ、できるヤツ!編」、ご参考まで。

1. 息抜きコラム

様々なテクニック②

後工程にやさしいマネジメント

「クライアントはユーザーと後工程の2つ」、と言ったのはドラッガーさん。継続案件だった場合、わかりやすい引継ぎをすると、次のリーダーに「むむ、できるヤツ!」と思われる(笑)。ニーズ表に、駐車スペースや、現場の簡単な絵と留意事項、特に必要な資料などを紙に書いて添付すると、すごく喜ばれますよ。

休憩を小まめにとるテクニック

休憩を小まめにとると、「えー、まだですか?」と思われるがち。メンバーが作業に夢中だと、気後れして休憩を切り出せないこともあるようです。それを逆にとって、「えー、まだですか?と思われると思うけど休憩!」と号令をかけましょう。午前中は多すぎると感じた休憩も、午後にはちょうど良いと気付いてもらえることが多いので、とにかくたくさん休憩しましょう。

出発の時に

朝のボラセン出発時、余裕を持って、「10分後の〇時〇〇分に出発します。それまでにトイレなどを済ませておいてください。また、現場でトイレに行きたくなった場合は遠慮なく申し出てください」と言うと、非常に頼もしく、また安心に感じてくれます。

現場に入る時に(テクニックでもなんでもない、当然のことですが...)

いくら状態がひどい場合でも、大事な自宅です。「長靴のまままで上がってもよろしいですか?」と家主さんに聞くと、その後のコミュニケーションがスムーズになります。

また、基礎だけが残ったお宅であっても、現場に着いた時だけは、横から乗り越えて入っていくのではなく、玄関だったところから「お邪魔します」と頭を下げてから入ると、それを見たメンバーの方が「なるほど」と、何かに気付いてくれるのではないかと思います。照れるかもしれませんが、単なる礼儀作法です。皆さんの作業の丁寧さが違ってくるように思います。

それからも、もし献花してあるお宅だったとしたら、静かに手を合わせる、黙祷するなど、普段からしている心がけを、心をこめて行いましょう。

備品持ち出し申請書 (屋外管理用)

日 時: 23年 6月 17日 (金) 時 分
 班名/個人名:
 活動 先:

貸出物品					
	物品名	個数		物品名	個数
1	スコップ(角) ☆	5	11	ちりとり ☆	5
2	スコップ(剣) ☆	5	12	ほうき ☆	6
3	角スコップ(小) ☆		13	竹ぼうき	
4	ラバ・モップ(水かき) ☆		14	じょれん ☆	6
5	デッキブラシ ☆		15	十能	5
6	くわ ☆		16	プラミ	2
7	くまで ☆		17		
8	バケツ(金属) ☆	4	18		
9	バケツ(プラ) ☆		19		
10	一輪車 ☆	1	20		

備品持ち出し申請書 (屋内管理用)

日 時: 23年 6月 17日 (金) 時 分
 班名/個人名: 上野
 活動 先:

貸出物品			貸出物品		
	物品名	個数		物品名	個数
1	バール(大) ☆	3	13	火ばさみ ☆	
2	バール(小) ☆	5	14	懐中電灯	
3	かなづち	2+2	15	作業服(上)	
4	ハンマー(大)	2	16	作業服(下)	
5	ハンマー(小)		17	レインコート	
6	のこぎり	2	18	雑巾	
7	レンチ		19	イソペクト	2
8	ワイヤーカッター		20	キタッ	2
9	ドライバー	⊖1 ⊕2	21	2Rキタッ	1
10	せんていばさみ		22	4エニリー	1
11	園芸用シャベル ☆		23	スクレパー	1
12	熊手(小)		24	表	

⑤ 資材管理用帳票/備品持ち出し申請書・屋外管理用(上)/備品持ち出し申請書・屋内管理用(下)

作業現場へボランティアを割り振り(マッチング)する前に、作業リーダーはニーズ票と現場報告書によって、予め必要資器材を確認する。伝票を起票して格納場所から資器材を持ち出す、また返却は同様の手続きとなる。管理専従のボランティアが全てコントロールした。(※手続きはできるだけ面倒を省き簡便にと心掛けたが、支援頂いた資器材は大切に使用して頂いた)

3. 対応不能ニーズ一覧

《七ヶ浜町社会福祉協議会が主宰するボランティアセンターの基本的な活動の指針》	
●作業を進めるにあたってボランティアの安全が確保できること	
●活動対応するニーズが震災（地震・津波）に起因するものであること	
●公平性（一部の利益に偏らないこと）が確保されていること	

NO	受付月日	地区名	ニーズ内容	否難	対応不能の根拠	説明
1	20110906	花洲浜	割山交叉点の側溝（鉄覆）掘り	1	県道を横切る排水溝、交通規制を大々的にかけて作業の安全確保を要する現場であり、ボランティアの能力を超えている	9/13 役場建設課に連絡
2	20111214	花洲浜	敷地内のガレキ撤去	1	3/10基礎撤去後に既に土を敷いてあったので不要とした	
3	20110000	菖蒲田浜	全壊トマトハウスのガラス拾い	1	ぬかるみに夥しい量の大小ガラス片が散乱、安全確保できず危険と判断	役場に連絡
4	20110621	代ヶ崎浜	家の周りの側溝かき	1	大潮・満潮時には海水で水没、作業不可。側溝掘りが却って浸水を助長するので	代ヶ崎区長に説明を依頼
5	20130328	菖蒲田浜	建築資材の運搬（40ftコンテナ侵入出来ないので現場まで運んで）	1	個人事業の手伝いとなるか？ボランティア活動としての意義が検討された結果不可	
6	20111220	花洲浜	多少の材料があるので、住宅に下屋を作って欲しい	1	予定日には既に完成していた	
7	20120324	菖蒲田浜	ブロック造りの小屋のヘドロ出しと物品の搬出	1	4/月上旬 既に重機で小屋壊し中であった	
8	20120219	湊浜	神社等の灯笼修理	1	由緒ある神社でもあり、この時点では技術的に対応不可とした	
9	20111020	湊浜	隣境のブロック塀を撤去（業者に頼むとお金がかかるのでVCにと）	1	依頼主はVCにお願いするか迷った結果、業者に頼むこととした	
10	20111126	菖蒲田浜	家の中壁・ベニヤなどのはがし	1	2/15業者入ったので不要となったと連絡あった	
11	20111026	代ヶ崎浜	敷地のガラス・瓦礫撤去	1	11/10改築工事中で対応せず	
12	20111110	代ヶ崎浜	改築に伴う廃材・家財不用品の撤去処分	1	業者により廃物処理済み	
13	20111213	代ヶ崎浜	塀のブロックかたづけ処理	1	作業不要となった旨連絡あった	
15	20110818	花洲浜	屋外不要物撤去	1	依頼主連絡先不明、で断念 以降現場は基礎だけが残っていた	
16	20110819	花洲浜	敷地えぐられて地面が穴あき状態、瓦礫撤去	1	10/10危険と判断対応せず、役場建設課への相談を促す	
17	20110927	菖蒲田浜	敷地内のガラス等の除去	1	9/30作業不要と連絡あった	
18	20110824	花洲浜	住宅基礎上の大引き根太はづし（再利用）、玄関床に傷つけない事他色々条件	1	再利用物の解体等は技術的に対応不可 細かい要望が多く専門業者の仕事と判断	
19	20110818	吉田浜	壊れたブロック塀の撤去	1	10/10家人によって撤去済み	
20	20110823	菖蒲田浜	家の前の道路（屋敷内）ゴミの撤去、路肩のえぐれ	1	10/10家人によって撤去済み	
21	20111007	花洲浜	床板はがし、床下ヘドロ出し	1	建物倒壊の危険有りと判断対応せず。直して実際に住むのか？とボラの疑問も	作業が無駄にならない？
22	20110812	花洲浜	床板撤去・床下泥だし、家具移動、風呂撤去	1	9/1解体につきニーズ取り下げ	
23	20110609	菖蒲田浜	床下泥だし ボランティア頼むか検討中	1	確認、解体することとした旨連絡あった	学生ニーズ聞き取り分
24	20110811	代ヶ崎浜	自宅周りの側溝掘り	1	側溝横はすぐ崩れて埋まってしまうので無駄作業になる	
25	20110703	花洲浜	倉庫解体前中に中の物を出してほしい。	1	7/10建物の傾きひどく危険と判断	
26	20110816	菖蒲田浜	瓦礫撤去	1	依頼内容不明 9/8ニーズ取り消し	
27	20110809	菖蒲田浜	墓石を元通りにしたい	1	技術的に対応不能	
28	20110807	菖蒲田浜	敷地内の大きな石を片付けてほしい	1	大きすぎて人力では無理とした	
29	20110830	代ヶ崎浜	児童公園の整備 草刈りヘドロ瓦礫撤去	1	可能な範囲内で作業で終了、しかし子供が遊べるレベルにはまだ遠い	行政で重機によって完成を
30	20110810	菖蒲田浜	倒れたブロック塀の解体撤去	1	かなりの強度ありボランティアの力では無理	

31	20110810	菖蒲田浜	不明	1	総合的に不明（現場住所・依頼内容不明）	
32	20110810	花洲浜	不用品の引き取り、リサイクルに	1	業者のビジネス領域を侵食する	
33	20110807	東宮浜	エアコン外れそうで、取りはづしを	1	この時点で技術が無く対応せず	
34	20110615	花洲浜	散乱した家業の建築資材を回収してまとめて欲しい	1	個人事業の手伝いとなるか？ボランティア活動としての意義が検討された結果不可	
35	20110618	仮設	バイクの調子悪い詳しい人見て	1	詳しいボランティアいないので対応できず	
36	20110426	汐見台	屋根の瓦20袋程度落として片付けたい	1	ボランティアを屋根に上らせられない、危険と断る	
37	20110506	遠山	アルバム清掃	1	連絡つかず	
38	20110800	代ヶ崎浜	庭の瓦礫、ブロック塀の瓦礫車で運んで 町でなかなか取りに来てくれない	1	町の環境課に繋ぐ	
39	20110602	菖蒲田浜	敷地の瓦礫撤去	1	近所同士で撤去した	
40	20110506	遠山	外回り片付け、ベッド・タンスの移動	1	5/20ボラセン遅いので人に頼んで終わらせた	
41	20110528	代ヶ崎浜	仮設引越しの為荷造り、布団・段ボール・仏壇等	1	直前に取消となった	
42	20110430	東宮浜	石灰を撒いてほしい？	1	5/30そのような依頼はしていない	
*学生のニーズ調査によるニーズには不明確なものも多い。 明確に依頼されなくても、〇〇の必要があるのでは？という感想でニーズを起こしてしまう場合もあるようだ。確認して判断する。						
43	20110507	遠山	庭にスズメ蜂の巣がある、駆除して	1	役場生活環境課に連絡して頂くよう伝える	環境生活課に繋ぐ
44	20110502	吉田浜	屋根瓦修理、一部落下の恐れありブルーシートを掛けて	1	ブルーシートを掛けてくれる業者を教える	
45	20110502	菖蒲田浜	畑の瓦礫除去	1	6/2現地調査時点で終了していた	
46	20110429	代ヶ崎浜	床はがし、泥だし	1	6/2作業不要との事 大工さんが？	
47	20110506	遠山	壁・屋根・塀を直して欲しい	1	年寄2人暮らしだが、ボランティアの域でなく対応できない	
48	20110429	代ヶ崎浜	作業場の大型機械を移動（海苔）	1	5/20依頼していない 大型の機械で到底ボランティアの力の及ぶところではないと。	
49	20110429	代ヶ崎浜	家の裏土砂崩れシート張	1	危険現場で対応しない	
50	20110430	東宮浜	道路向かいの桜の木を伐採して欲しい	1	今災害に起因するものでないので活動対象外として了解を得た	
51	20110429	東宮浜	畑のブロック崩壊、車通れない ブロック・石積を依頼	1	石積み技術なく不能	
52	20110502	吉田浜	ブロック塀が道路側に崩れてかかっている、直して	1	技術的に不対応 役場に繋いだ	
53	20110502	菖蒲田浜	泥だし	1	要望内容違い 不明	
54	20110502	菖蒲田浜	家財道具用に小屋を立てているが大工を中心に人手派遣して！ガレキも一緒に	1	重機を必要とするのでボラセンでは対応不可	
55	20110504	菖蒲田浜	瓦礫撤去ほか撤去	1	解体予定の物件なので対応せず	
56	20110429	東宮浜	床下泥だし 石灰消毒 壁倒れ	1	ボランティアは頼んでません、と明るく？	
57	20110430	東宮浜	床下消毒	1	消毒作業は家人でやって頂きたい、と断る 快諾	
58	20110429	代ヶ崎浜	側溝掃除	1	公共の大規模側溝で対応不能と返事	
59	20110430	花洲浜	私設幼稚園職員室の机・椅子（新品）組立依頼	1	5/3自力で完了した	
60	20110429	花洲浜	和室床剥がし、3室泥だし	1	5/3自力で完了した	
61	20110502	代ヶ崎浜	トイレ浄化槽の掘り出し、給湯器の片付け	1	5/3家人で完了した	
62	20110429	東宮浜	泥だし 床剥がしたら連絡する	1	その後連絡なし 終了している模様	
63	20110429	汐見台	和室等（3室）の床剥がし（40坪）、泥だし	1	業者対応へ	
64	20110501	東宮浜	瓦の運びだし（20袋程度）用に車両貸して	1	運搬車両なく対応不能	
65	20110426	代ヶ崎浜	公民分館床板剥がし、床下泥だし（大工さんのいる間に）	1	危険建築物につき立ち入り禁止	
66	20110425	花洲浜	自宅周りのガレキ撤去	1	重機必要で対応不出来	
67	20110423	東宮浜	床下もぐり泥かき	1	ボランティアを床下に潜らせるか検討の結果安全確保できず不可とした	
68	20110422	代ヶ崎浜	ブロック塀道路に落ちた片づけを	1	重機対応を？	

69	20110419	汐見台	1階の荷物を2階に、住めるようにしたい(区長さん経由)	1	取り消し申し込みあった
70	20110418	代ヶ崎浜	床下泥だし 床板剥がしは職工組合に問い合わせを、後に泥だしする	1	解体転居するので中止となる
71	20110412	松ヶ浜	屋根瓦落ちた 一輪車で10回分片付けて	1	4/18屋根うへの残瓦落下危険あり、大工さんが対応することとなった
72	20110416	東宮浜	床下泥だし	1	自力で対応できる として取り消し
73	20110400	湊浜	門・塀崩れがれきの撤去を	1	自力で対応できる として取り消し
74	20110414	菖蒲田浜	歯科医院の側溝堀	1	敷地内の問題でなく、周辺地域全体問題なので役場建設課?に相談するよう、了解を得た
75	20110414	遠山	住宅外壁落ち 片づけを	1	ユニック等の重機・トラックを要する 町役場に連絡
76	20110407	湊浜	室内の掃除	1	緊急性が低い
77	20110410	松ヶ浜	流れ着いた冷蔵庫などの撤去	1	庭の片間で生活上不便もない 子住宅も取り壊す予定なので撤去の用無しと判断
78	20110405	菖蒲田浜	流されたログハウス事務所から書類を取り寄せたい	1	阿川沼畔のぬかるみを進んで、当該建物までたどり着くのは危険すぎる
79	20110328	花淵浜	幼稚園の庭泥除去 石灰を撒く	1	住宅優先であり、緊急を要さないと判断を伝える
80	20110407	花淵浜	震災ごみを広場のゴミ集積所まで運んで	1	依頼主より取消申し込み
81	20110331	湊浜	ブロック塀半分倒壊 片付けて	1	現場調査の結果労力的・規模的に対応不可 役場に相談を、とした
82	20110405	湊浜	隣家に石垣が崩れた 片付けて	1	石が大きすぎてボランティアには危険として対応せず
83	20110406	湊浜	壁ひび割れ、ふすま歪んで閉まらず、塀が倒れて隣家に倒れそう、1階窓閉まらず防犯	1	町総務課に相談するよう伝える
84	20110404	湊浜	ブロック塀が道路に倒れる 撤去を	1	規模が大きすぎて対応できず 町総務課へ相談するよう伝える
85	20110329	花淵浜館下	畳・冷蔵庫など道路に運び出したい 住宅傾き危険(2階床落下恐れあり)	1	危険につき取消し
86	20110404	松ヶ浜	敷地内のアルバムや卒業証書など散乱したものの回収を	1	4/5現場確認するも該当物発見できず 又現場はすでに重機で作業中 依頼主に伝える
87	20110404	東宮浜	外のゴミを指定捨て場にトラックで運んで	1	本人宅にはトラック数台あるのだが・・・車両の手配もつかず断った
88	20110325	松ヶ浜	電柱、流木、板など片付けて(町でやってくれるのか?)	1	ボランティアの能力を超えている
89	20110401	遠山	泥を入れたドラム缶を震災ゴミ置き場に運んで欲しい	1	出来ない 細かい食器類の片づけなどは対応するので再度連絡ください
90	20110325	吉田浜	ガレキの撤去、タンス類の撤去	1	旅館 家屋危険表示となっており対応不可とした
91	20110328	花淵浜	2階の家財運びだし 車は用意できるので	1	2階物からの搬出は危険である 家屋調査票は未だ貼られてない
92	20110323	代ヶ崎浜	畳・ヘドロ・家財の運びだし	1	3/27再調査 建物歪み ブロック塀落下恐れあり 危険現場として対応せず
93	20110323	代ヶ崎浜	家の周り片付け 畳の運びだし	1	3/27確認危険建物判定あり 倒壊の危険あり対応せず 住めるの?
94	20110326	遠山	壊れた家が道路にはみ出し通行の邪魔になっている 船も突っ込んで		町への対応依頼 本人に伝える

※ 表は一部であり実際は、対応しなかった又はできなかった案件はかなりあったと推測される。
 ※ とくに、対応しきれない数のニーズがあり、一時は作業に取り掛かるまで3ヶ月間の猶予を頂いて進める時期があった。したがって、家人で済ませた案件が多くあったのである。
 ※ この時点でのニーズへの対応は、行政方針が未だ明確でないこともあり致し方ない事であったが、ボランティアによる住宅の片づけ後に、行政によって取り壊し等が行われ、われわれの活動はいついたいなんだったのかと、疑問を漏らすボランティアの声も聞こえた。
 →被災住宅の片づけについて……畳だし・家財道具運びだし・壁はがし・床板はがし、床下ヘドロかきなどを行うも、結果的に行政側で重機を用いて住宅を解体、整地する場合が見られた。
 →住宅跡地の整備について……ボランティアによる細かいガレキ片付け後に、行政の整地～盛土などで最終的には作業現場が埋め立てられた。
 →側溝掘り……地域全体のかさ上げにより、掘り上げた側溝も当然埋め立てられた。
 以上のように、ボランティア活動と行政の復旧計画の時間的ズレが、活動の有効性に大きな疑問を残す結果となった。

4. 宮城県内におけるボランティア受け入れ状況一覧（平成24年9月時点）（情報元、宮城県社会福祉協議会）

	住 所	休業日	問合わせ関係		申込(受け入れ)方法		
			電話番号	問合わせ時間	当日受付可	事前予約制	事前登録制
気仙沼市社協ボランティアセンター	気仙沼市東新城2-1-2	水曜日	080-5949-7475 0226-22-0722 FAX 22-0732 ※ホウ要請 0226-22-0726	10:00～16:00 (水曜日除く)	×	×	○ ※用紙をダウンロード、当日受付に提出
南三陸町災害ボランティアセンター	本吉郡南三陸町志津川沼田56 (バイサイドアリーナ)	なし	0226-46-4088	9:00～15:30 (いつでも可)	<個人> ○ ※用紙ダウンロード、当日受付に提出	×	<団体> ○ ※1週間前まで電話で登録 ※用紙をダウンロード、当日受付に提出
石巻市災害ボランティアセンター	石巻市不動町2-16-10 (勤労者余暇活動センター明友館)	土・日、祝日	0225-23-3911 FAX 23-3912	9:00～17:00 (平日のみ)	×	○ ※用紙ダウンロード、10日前までFAXで提出	×
女川町復興支援センター	牡鹿郡女川町桜ヶ丘7-7 (旧女川幼稚園)	水曜日	0225-25-4911 FAX 25-4912	8:30～17:30 (水曜日除く)	×	○ 電話・メールにて予約	×
東松島市生活復興支援センター	東松島市矢本大溜9-1 (東松島市コミュニティパーク)	第2,4土・日曜日 祝日	0225-83-5001 FAX 82-9813	8:30～17:15 (休業日除く)	×	×	○ ※用紙をダウンロード、FAXで提出
塩釜市社協ボランティアセンター	塩釜市北浜4-6-52	土・日、祝日	022-364-1213	8:30～17:15 (平日のみ)	※ボランティアの募集なし		
多賀城市社協復興支えあいセンター	多賀城市城南1-18 (国府多賀城駅南地区応急仮設9-1)	土・日、祝日	080-5949-7501 ※仮設支援受付 080-5949-7500	9:00～17:00 (平日のみ)	×	×	○ ※用紙をダウンロード、FAX・メール等で提出
浜を元気に！ 七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター	宮城県七ヶ浜町吉田浜字野山5-9	月・火曜日	090-6853-4490 ※県外の方 080-5949-8452	10:00～16:00 (休業日除く)	×	○	10月から変更の予定あり
復興支援"EGAO(笑顔)せんたい"サポートステーション	仙台市青葉区 五橋2-12-2 (仙台市福祉プラザ4F)	日曜日	022-266-6805	9:00～16:00 ()			○
なとり復興支援センターひより	名取市増田字柳田80 (市役所西棟2F)	土・日曜日	022-383-3185 FAX 383-3186	9:00～16:00 (平日のみ)	×		○
岩沼市復興支援センター スマイル	岩沼市里の杜3-4-15 (市総合福祉センターあいプラザ)	土・日、祝日	080-5949-7540 FAX 0223-29-3341	8:30～17:15 (平日のみ)	×	×	○ ※用紙をダウンロード、FAXで提出
亶理ささえあいセンター「ほっと」	亶理郡亶理町字旧館60-7	土・日、祝日	0223-36-7559 FAX 34-7552	9:00～16:30 (平日のみ)	×	×	○ ※用紙をダウンロード、FAX・郵送等で提出
やまもと復興応援センター	亶理郡山元町浅生原字作田山32	なし	ボランティア班 080-5949-7720・7724 FAX 0223-35-6223	9:00～17:00 (平日のみ)	×	○ ※電話での受付のみ	
			生活支援班 0223-35-6223		×	○ ※活動日の2週間前まで連絡	

活動関係				受入条件等	その他
受付(集合)時間	活動日	活動時間	主な活動内容		
8:30まで集合	水曜日除く	9:00～15:00	室内清掃、屋外での片付け作業、洗浄作業、荷物運び、仮設住宅等での軽作業、イベント手伝い等	○小学生以下不可、中学生は保護者又は教職員同伴	気仙沼復興協会-KRK 0226-27-3882
8:30～9:00	毎日	9:00～16:00	がれき撤去、側溝泥出し、漁業支援、農業支援(開拓)など	○15～18歳未満は保護者又は団体責任者同伴、保護者の承諾書など。	
8:30～10:00	平日	9:00～16:00	家屋内外の片付け、家財道具の運び出し、泥出しなど	○5～10名以下のグループ又は団体に限る ○高校生以下不可	石巻市復興支援協議会 0225-98-3691
8:30～9:00	水曜日除く	9:00～15:30	浜の清掃、交流会等イベントの手伝いなど	○19歳未満は保護者同伴又は責任者の監督の下に活動	
8:30～9:00	第1,3土・日曜日	9:00～15:30	屋内外での片付け、泥出し、家財運搬等	○小学生以下不可 ○中学生は保護者同伴	東松島復興協議会 0225-98-6061
			被災者への支援活動、イベントの手伝い等 ※災害ボラ活動終了	○高校生以上の復興支援ボラのみ募集 ○活動日を指定した登録は不可	
8:45～9:15	自然災害系 金・土・日曜日 生活支援系 水～日曜日	9:15～15:00	細のがれき撤去 被災者の生活支援、サロン、イベント	大学生以外の学生は保護者の同伴が必要。小学生以下は、保護者同伴でも環境整備。	
	月～土曜日				
			仮設住宅・みなし仮設等における生活支援		
活動内容による (ニーズに基づき)	月～金曜日 (イベント日は除く)	活動内容による (ニーズに基づき)	交流会等イベントの手伝い等	○活動計画所は1か月前までに提出	※仮設での支援希望者 里の杜SC 0223-36-8105
活動内容による (ニーズに基づき)	随時 (ニーズに基づき)	活動内容による (ニーズに基づき)	体力的活動:日曜大工、環境整備、引越し生活支援;手芸、囲碁・将棋、レクリエーションなど	○活動日を指定した登録は不可	
9:00～10:00	随時 (ニーズに基づき)	10:00～15:00			・ひのきしん山元(090-4012-6327) ・おてら災害VC(090-3364-2097)

5. セブシマ町災害ボランティアセンターへの応援派遣職員数並びに支援活動内容

平成23年3月14日にセブシマ町協災害ボランティアセンターが開所し、全国の社会福祉協議会のうち、中国・四国ブロックより応援職員が派遣されました。その活動は、25クールに及び、鳥取県・京都府・大阪府、島根県・山口県から34名が派遣され、大きな支援を受けました。

◎鳥取県 島根県社協5名 若桜町社協1名 計6名派遣

派遣クール	派遣社協	派遣職員氏名	派遣期間	備考
第1	鳥取県社協	前田圭一	平成23年3月18日～3月24日	
第2	鳥取県社協	濱本義則	〃 3月23日～3月28日	
第3	鳥取県社協	中村裕司	〃 3月27日～4月1日	
第4	湯梨浜町社協	三ッ田達彦	〃 3月31日～4月5日	
第5	鳥取県社協	河本学	〃 4月4日～4月9日	
第6	若桜町社協	鎌谷徹道	〃 4月8日～4月13日	

◎京都府 舞鶴市社協1名 和束町社協1名 綾部市社協1名 精華町社協1名
宇治市社協2名 京田辺市社協1名 城陽市社協1名 木津川市社協1名
亀岡市社協1名 南丹市社協1名 計11名派遣

派遣クール	派遣社協	派遣職員氏名	派遣期間	備考
第4	和束町社協	山下貴志	平成23年3月31日～4月5日	
第7	舞鶴市社協	小幡慶一	〃 4月12日～4月17日	
第11	綾部市社協 精華町社協	田中克典 島中秀司	〃 4月28日～5月3日	
第12	宇治市社協 京田辺市社協	岡野英一 加藤誠	〃 5月2日～5月7日	
第13	宇治市社協	米田守	〃 5月6日～5月11日	
第14	城陽市社協	田中勇亮	〃 5月10日～5月15日	
第15	木津川市	小谷明継	〃 5月14日～5月19日	
第16	亀岡市社協 南丹市社協	中村浩之 山内明	〃 5月18日～5月23日	

◎大阪府 豊中市社協 岬町社協1名 計3名派遣

派遣クール	派遣社協	派遣職員氏名	派遣期間	備考
第8	豊中市社協	吉田和光 福谷昭二	平成23年4月16日～4月21日	
第9	岬町社協	亀崎泰広	〃 4月20日～4月25日	

◎島根県 雲南市社協 1名 計 1名派遣

派遣クール	派遣社協	派遣職員氏名	派遣期間	備考
第 10	雲南市社協	森脇薫	平成 23 年 4 月 24 日～4 月 29 日	

◎山口県 13名 山口県社協 1名 周南市社協 2名 美祢市社協 1名 萩市社協 2名
下関市社協 1名 下松市社協 1名 宇部市社協 1名 防府市社協 1名
光市社協 1名 柳井市社協 1名 山口市社協 1名 計 13名派遣

派遣クール	派遣社協	派遣職員氏名	派遣期間	備考
第 9	美祢市社協	羽根一孝	平成 23 年 4 月 20 日～4 月 25 日	
第 10	萩市社協	三村和之	〃 4 月 24 日～4 月 29 日	
第 13	周南市社協	木原正和	〃 5 月 6 日～5 月 11 日	
第 14	山口県社協	福田惇一	〃 5 月 10 日～5 月 15 日	
第 17	下関市社協	高嶋博幸	〃 5 月 22 日～5 月 27 日	
第 18	下松市社協	石田寿幸	〃 5 月 26 日～5 月 31 日	
第 19	宇部市社協	藤本圭	〃 5 月 31 日～6 月 6 日	
第 20	防府市社協	脇村洋子	〃 6 月 5 日～6 月 14 日	
第 21	光市社協	小西俊弘	〃 6 月 13 日～6 月 21 日	
第 22	柳井市社協	坪野泰明	〃 6 月 21 日～6 月 28 日	
第 23	山口市社協	中田聖大	〃 6 月 27 日～7 月 5 日	
第 24	萩市社協	山本真琴	〃 7 月 4 日～7 月 12 日	
第 25	周南市社協	佐伯桃子	〃 7 月 11 日～7 月 19 日	

6. ボランティアセンター スタッフの変遷（町内スタッフ）

月日	事務所スタッフ	震災前登録ボランティア	ボランティアスタッフ	
2011.3～	星庄衛局長 渡邊信男次長 小野哲専門員 星真由美ボランティア コーディネーター	山本真理子 引地淑子 阿部巖 柴田信敏	遠藤久和 岡崎正憲 菊地満 齋藤澄夫	松浦結 地元高校生 地元大学生
※震災前からの社協職員が中心となり運営した。登録スタッフは自身が被災に合い、家屋倒壊や家族が被災したことから、震災後すぐに駆けつけることは不可能だったが汐見台地区在住の山本さんや要害在住柴田さんが活動に入った。				
2011.4～	星局長・渡辺次長 小野専門員 星・遠藤・引地・柴田	竹中昇子 山本真理子 高橋和子 鈴木美恵子 村上妙子	岡崎正憲 阿部和夫 橋田恵理 伊丹由香 松浦満寛	二階堂修 佐藤志津 澤田まり子 佐藤直美 渡辺圭
※この頃は、若い世代の継続ボランティアが活躍した。また災害ボランティアとして活動した方がスタッフとしてボランティアセンター運営に携わった。				
2011.7～	星・引地・竹中・柴田 佐藤冬樹（学生）		遠藤久和 二階堂修 小野寺龍一朗 菊地文佐子 鈴木良助 斉藤正美 松浦光寛 松浦結	WEB班 本田智子 阿部美紀 工藤里恵 セツ浜町ボラン ティア友の会
2011.8～	↓	ボランティアリーダーが現る（全国総勢40名）		
2012.4～	星・引地・竹中・柴田 佐々木彬総（学生）		伊賀誠樹	
2012.8～	星・引地・竹中・柴田 小野寺龍一朗	↓	↓	大学生協が立ち上げたブログサイトを地元ボランティアが引き継いだ。
2013.4～	星・引地・竹中・柴田		遠藤久和 小野寺龍一朗 二階堂修 伊賀誠樹 菊池義徳 柴田清利	↓
2014.1	現在に至る ↓		↓	↓

7. 余剰資器材の最終振り分け先

資材	総数	7vc	Team RESCUE	ゆめクラブ	船形コロニー	資材	総数	7vc	Team RESCUE	ゆめクラブ	役場	船形コロニー
剣先スコップ大	80	20	20	5	35	台車	3	3				
小	34	10	20	5	9	一輪車	30	5	5	2		18
角スコップ大	50	20	20	5	5	リヤカー	2	1	1	1		
小	32	9	10	5	18	自転車	6					
レーキ	39	5	30	4		キャッチリフター	3	2	1			
フォーク	10	2	5	3		発電機	1			1		
鍬	159	5	10		144	高圧洗浄機	3	2	1			
三本鍬	19	5	10	4		電動ノコ	1	1				
鋤簾	21	5	5	5	6	チェーンソー	0					
十能	10	5	5			刈払い機	130	4	7	2		
つるはし	10	3	5		2	グラインダー	2	2				
熊手	15	7		4	4	コードリール	3	2	1			
竹熊手												
手鎌			10			ミニコンプレッサー	1	1				
バケツ	160	100				ワイヤーカッター	6	2	2	2		
大型ポリ樽	5	5				脚立	6	3	3			
ペール缶	13	5	5		3	ブルーシート	73	20	30			23
チリトリ	32	5	3		24	ロープ	10					
箒	8	5	3			手式リフター	3		3			
デッキブラシ	22	5	3		14	土嚢袋400入	188	20	70		50	48
ジョー呂	13	5		4	4	がら袋200入り	36		18		6	12
スィーパー	8	5	3			長靴	160	30	26			80
ホースリール	4	2	2			胴長	4	2	2			
トンゴ	43	20	10		13	手袋	6箱	2	4			混み1箱
フルイ 小丸	82	12	5		69(9箱)	マスク	130箱					
角大	15	10	5			ヘルメット	26	10	16			
移植ベラ	79	30		10	39	つなぎ	8					8
たこ	1	1				舟(洗い物用)	6	3	1			
玄能	10	5	5			HILTI工具セッ	1				1	
パール 小	27	3	3		16	非常ライト			3			
大		3	2			ゴーグル						88
ハンマー	12	2	5	1	4	ソリ	6					6
ゴムハンマー	2	2				大型ポリ缶	3					3
木槌	1	1				ほうき						5
のこぎり	13	5	3	3		雨合羽 上着	48	0				48
手斧	5	3	2			上下揃	13	0			4箱	13
枝切り鋏	28	5	10	2	11	ズボン	5	0				5
インパクトレンチ						コート	1	0				1
ツールスタンド												
熊手3本小	18		10	5	3	高圧洗浄機200v用						1
熊手5本小	35		15	5	15	薫口		2				
鎌(稲刈用)			10	5	11							
雪掻スコップ	11											

■「役場」…七ヶ浜町役場／「7VC」…浜を元気に！七ヶ浜町復興支援ボランティアセンター／「ゆめクラブ」…NPO法人アクアゆめクラブ／「Team Rescue」…NPO法人 チームレスキュー／「船形コロニー」…宮城県船形コロニー(宮城県社会福祉協議会運営施設・事業所)

■各団体への作業資材は、譲渡するものとし、譲渡以降の管理等一切について社会福祉協議会は関知しないものとする。

■ボランティアセンターの資材保持分について、利用見込みが無くなった段階で町～地域に譲渡する方向で検討する。

8. 継続ボランティアのライフスタイルに関するアンケート項目（全文）

宮城県宮城郡七ヶ浜町 社会福祉協議会

・七ヶ浜町のボランティアセンターにて、継続的に活動されたボランティアの皆さんにおたずねします。下記、質問項目にご回答ください。

・本アンケートは、一般的なものに比べて「自由回答項目」が多くなっています。これは、継続ボランティアをされたみなさんからできるだけ丁寧にご経験・ご意見をうかがうためです。

・ご入力・ご記入のお手数をおかけしますが、ご経験の詳細や忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

(* 印は必ずお答えください。)

1. ボランティアに行こうと決意されたおもな理由は、どのようなことでしたか？ * （ご自由にお書き下さい）

2. なぜ、七ヶ浜町をボランティア活動の場所として選ばれたのでしょうか？ *

（活動場所選定の決め手になった理由を教えてください。）

3. ボランティア活動を長期間継続されたり、繰り返し参加されたりしたのは、どんな理由からですか？ *（記号に○をつけてください。複数回答可、その他の場合は具体的にお書き下さい）

- a. 被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから b. ボランティアの仲間ができたから c. 納得できる復旧の段階まで活動したかったから d. 被災者と強いつながりができたから e. ボランティア活動が楽しかったから f. 自由な時間があったから g. 最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから

・その他（ ）

4. あなたのボランティアスタイルをお教え下さい。 * （おおよそ該当する方をお選び下さい）

- a. 滞在型 b. 通い型（県外から） c. 通い型（県内から）

5. 「4」で「滞在型」と回答された方は、宿泊手段をお教え下さい。 （おもな滞在方法で結構です）

- a. テント泊 b. 車中泊 c. ボランティア用の宿泊施設利用 d. 一般の宿泊施設利用

・その他（ ）

6. 「4」で「滞在型」と回答された方は、滞在は、何度ありましたか？

（合計日数ではなく、滞在しながらの活動を何度行ったかをお教えください。）例）8回

（ ）回

7. 「4」で「通い型」（県外、または、県内）と回答された方、交通手段をお教え下さい。

おもな交通手段で結構です。（記号に○をつけてください）

- a. 鉄道（在来線のみ） b. 鉄道（新幹線併用） c. 長距離バス
d. ボランティアツアーバス e. 自家用車 f. バイク g. 自転車

8. 七ヶ浜ボランティアセンターで最初に活動されたのはいつですか？ * (日にちが定かでない場合は、おおよその日にちを指定してください。)

(西暦 年 月 日) ごろ

9. 七ヶ浜ボランティアセンターで最後に活動されたのはいつですか？ * (日にちが定かでない場合は、おおよその日にちを指定してください。)

(西暦 年 月 日) ごろ

10. これまで、七ヶ浜でのボランティア活動の合計日数を教えてください。 * (概算で結構です。) 例) 35日

() 日

11. ボランティア活動にかかったと思われるおおよその費用をお教え下さい。 * (万円単位の、概算で結構です。) 例) 35万円

() 万円

12. ボランティア活動の費用の負担先をお教え下さい。 * (記号に○をつけてください)

- a. 全額自己負担 b. ほぼ自己負担、一部企業団体等からの補助
- c. 企業団体等からの補助と同等程度の自己負担
- d. ほぼ企業団体等からの補助、一部自己負担 e. 全額企業団体等からの補助
- その他 ()

13. ボランティア活動そのものについて伺います。ボランティア活動に際し、嬉しかったこと、感動したことなどをお知らせください。 *

14. ボランティア活動に際し、困ったこと、嫌な思い、不満に感じたことをお知らせください。 *

15. 七ヶ浜町のボランティアセンターに対するご意見を伺います。運営について、よかったと思う点、悪かったと思う点をお書き下さい。 *

9. 継続ボランティアのライフスタイルに関するアンケート 回答（自由回答分すべて）

NO	1. ボランティアに行こうと決意されたおもな理由は、どのようなことでしたか？	年齢	性別	職業
001	多くの方が被害に合われている。これだけの災害に対して、何かせずにはいられなかったから。	50代	男性	自営業／フリーランス
002	始めは知人に誘われた事がきっかけですが、生まれ育った土地が多大な被害にあい沢山の生命が失われた為。	40代	男性	会社員
003	京成バスツアー案内を見て、自分にもできることがありそうだと感じた。	40代	男性	会社員
004	被災したから。 それでも、余裕のない人に比べれば、自分には余裕があったから。	30代	男性	会社員
005	当時、民間団体のカウンセラーをしており、全国のカウンセラーが3人一組になり被災地で支援しようという動きがあったのがきっかけです。	50代	女性	会社員
006	前に七ヶ浜に住んでいましたから手伝いたかったです。	30代	男性	会社員
007	募金活動に参加するだけでなく何か私でもお力になれることはないかと考えていたところ、勤務先で七ヶ浜に伺い復興支援のためのボランティア参加者を募集していたので参加しました。 2回目以降は、現実を知らない中学生も現実を知る必要があり、それを友人等にも知らせる必要があると思ったため。また、将来にわたりボランティア活動に参加することへの敷居を低くするため。 また、私自身もまだまだお力になりたいと考えたため。	40代	女性	会社員
008	阪神淡路大震災の時に知人を支援できなかった、悔みを昇華させたいと思ったから・・・	50代	男性	無職
009	もともと大災害発生時の支援活動には関心がありましたが、踏み出すきっかけが掴めずにいました。そのきっかけとなったのは、以下の3つの出来事でした。 ①東日本大震災発生直後のゴールデンウィークに、勤務先で「被災したお客様に激励の手紙を書く」という活動をしました。連休を3日も潰して約50通書きました。その時「同じ休日を潰すなら手紙より現地に行って直接支援活動をしたい」という思いが強くなりました。 ②当時 88歳の父が義捐金を数十万円送ったと話すのを聞き、「父より遥かに若くて身体の動く自分が、同じようにお金だけ送って満足してはいけな」と強く感じました。 ③そのような時に、新聞で旅行会社がボランティアツアーを企画しているという記事を読み、これならば自分にも参加出来そうだと感じてインターネットで検索し、自分の都合に合うツアーを搜しました。	50代	男性	公務員・団体職員
010	精神的に病んで帰省していた時、被災した地元のために何かできることをやろうと思い立ったため。	40代	男性	会社員
011	東北出身で、宮城県名取市に自宅があり、とてとても他人事ではない大震災であったこと。そして、当日当夜、東京勤務のため、被災地から離れて暮らしていたことで、多くの親戚・知人が心配だった。そして、自分の故郷に対して、自分個人として出来ることを出来る範囲でしようと思い立った。	40代	男性	会社員
012	切っ掛けは、会社主催のボランティア活動でした。 それまでは、ボランティアの『ボ』の字も意識していませんでしたが、会社からの募集に気付かされ「被災地に暮らしてて、自分は何不自由ないのに何してたんだ！」と。	50代	男性	会社員
013	困っている人を助けるのに特に理由は特にない。 敢えて言うなら東日本大震災では、その被害規模と赤ん坊が流されたとニュースで聞いて。	40代	男性	会社員
014	義援金を出して、はい終わり、とはしたくなかったのと、まずはこの目と体で、体感したかったから。	30代	男性	会社員
015	かつては阪神淡路大震災から続けており、当然のことだと思ったから。	30代	男性	公務員・団体職員

016	将来、子供から「宮城県に居た時に震災があったと思うが、その時に何をしていた？」と聞かれた時、「何もしていなかった。」とは答えたくなかったから。	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	母の実家が津波被害にあったが岩手県宮古市では県外ボランティアを受け付けていなかった。募金ではなく、故郷である岩手に限らず東北ならどこでも現地支援に行くつもりでいた。しかしながら東京からの受け入れやアクセス、宿泊などの情報が取れずにもやもやしていたところ、会社(NTTコミュニケーションズ)の復興支援活動の従業員向け募集が5月にあり機会を得た。	40代	男性	会社員
018	甚大な被害により苦しんでいる方々のお手伝いのできればと思います。	40代	男性	公務員・団 体職員
019	震災後、報道など被害の様子を知りながらも、被害を受けた各地に対して自分は直接何もできないでいました。当時学生だった私は、大学が休校になったこともあり時間的に余裕があったことからボランティア活動を行おうと決意しました。	20代	男性	学生
020	テレビから流れる未曾有の大震災の様子を見て 同じ日本人が困っているのに スルーすることはできず 行こうと思いました。 あとチャリティーライブなどで好きなアーティストなどが東北のためにと頑張っている姿を見て 自分も何かしなければという想いも強くなりました。 (ちなみに自分が参加したチャリティーライブは氷室京介でした)	30代	男性	医療 従事者
021	海外に住んでいて、自分の出身地であり家族が住む地域が被災したのを見て、居ても立っても居られなくなり、最初は2011年の5月に来ました。その後は里帰りの度に来ています。	30代	女性	会社員
022	震災の年の12月に石巻を訪れる機会があり、実際に被災された地域を見て、自分でも何かしなくては・・・と想って。	30代	男性	会社員
023	・自分の住んでいる町が壊れてゆくさまを目の当たりにし、できることを考えた(その時には、たいいていの家々が停電していたが、勤務先が発電機能を持った施設だったためTVを見てしまった) ・親戚(閑上)の家がなくなった。	40代	女性	会社員
024	あの日の夜、東京で帰宅難民になり、馴染みの店で朝まで繰り返し繰り返し津波で破壊されて行く街並みを観てました。その時に一人の日本人として小さな瓦礫の一つでも拾いに行かなければと決心して。	50代	男性	会社員
025	自分の生活が ある程度落ち着いた頃、気にはなっていたが、行く切っ掛けが無かった。 たまたま会社のボランティア募集があり参加した。	50代	男性	会社員
026	自閉症の子供が避難所に行けず(集団の中では不安感が強くてパニックになってしまうので)家族で車の中で生活している、という新聞の記事を読んで、障害者のために役立ちたいと思って。	50代	女性	無職
027	2011年6月に前職を退職したこと。 様々な経験を積んで勉強しようと思ったこと。	30代	男性	会社員
028	七ヶ浜町民として会社定年後に町の復旧復興に少しでも役に立ちたいと思った	70代	男性	その他 シルバー人 材センター 派遣
029	”人の力が必要とされている”と感じたから	40代	男性	会社員
030	悩みがあったから 「人のために進んで何かをしたかったから」	30代	男性	無職
031	夏目漱石の言葉「人は負担にならない程度になるべく親切にするのが良い」が私の行動の源 困っている人に手助けすることは当然のこと、特別なことではないと常々思っている ので、とまどいもなく行動に移すことが出来ました。	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	人の役に立ちたいと思ったから	20代	男性	無職
033	報道で惨状を知り、何かせずに居られない想い。遠くにいる親戚の被災にも手助けできない環境に置かれ、出来ることを出来る場所でやろうと思いました。	70代	男性	無職
034	宮城県知事が1万人死亡との話から遊び人の私は、2ヶ月間遊ぶのを止めた。ういたお金を日赤にと想ったが、体が健康なので10万円分ボランティアをしようとして始めた。	60代	男性	無職

035	震災直後に都内の流通ショックの復旧に巻き込まれて鎮静化させるのに大変な思いをただけに、この震災が人事のように思えなかったため。	30代	男性	会社員
NO	2. なぜ、七ヶ浜町をボランティア活動の場所として選ばれたのでしょうか？	年齢	性別	職業
001	比較的情報が入手しやすかったこと。また、自分の適正にあった仕事(ブログアップの仕事など)が用意されていたから。	50代	男性	自営業/ フリーランス
002	移動手段 当時ガンリンが手に入らず自転車での移動が可能な範囲だったから。	40代	男性	会社員
003	バスツアー会社で選定されていたので、特に自分では選んでいません。	40代	男性	会社員
004	地元だから。 実際には隣の多賀城市ですが、地元という意識です。	30代	男性	会社員
005	2011年5月から場所を決めずに 非難所まわりを始めました。最初は石巻から、多賀城、塩釜、仙台など回りました。ボランティアセンターがあるところはネットで調べて行きました。七ヶ浜もその一つでしたが、ボランティアセンターの仕組みがとてもしっかりしていて、仕事をしやすかったので一番回数が多くなりました。	50代	女性	会社員
006	前に七ヶ浜に住んでいましたから得に七ヶ浜を手伝いたかった。七ヶ浜はボランティアセンターがなかったら他の宮城の町を手伝ったとおもいます。	30代	男性	会社員
007	初回は勤務先での参加だったため。 初回参加して七ヶ浜のボランティアセンターの方にお話をお聞きし、中学生の娘でも参加可能なことが分かったため。 2回目に参加してボランティアセンターの方に大変良くしていただき七ヶ浜以外には考えられませんでした。	40代	女性	会社員
008	陰ながら七ヶ浜の知人を応援したいとの想いから・・・	50代	男性	無職
009	特に七ヶ浜町を選んだわけではありません。自分に日程の合うボランティアツアーを選んで毎月1~2度ずつ各地を訪れていました。その中のひとつが、たまたま七ヶ浜町でした。	50代	男性	公務員・ 団体職員
010	実家(塩釜)から近く、幼少期に家族で海水浴に行った思い出の場所だったため。	40代	男性	会社員
011	20数年前、毎年夏に訪れていた菖蒲田浜の土地だったから。 また、勤務する会社がボランティア派遣を行う土地が七ヶ浜だった。	40代	男性	会社員
012	主催した会社が『七ヶ浜』を選んでいたので。 ただ、初回参加後 各地の活動状況・立地などから、矢張り七ヶ浜が活動しやすいと感じました。 また、向かい入れて頂くスタッフ・リーダー、地元の方達との関わり合いが、「また行こう!」の原動力になっていました。	50代	男性	会社員
013	当初、震災直後に行くつもりで準備していたが、胆道閉鎖症の女性の手術準備の為に通院で備蓄燃料を放出した為に行けず。結局1ヶ月間の間で物資をコツコツと揃えて、その時公式に県外ボランティアを受け入れていたのが七ヶ浜のみで友人が連絡してくれて一緒に行く事になった。	40代	男性	会社員
014	メモリーの行き先が七ヶ浜だったから。 あとは、長渕悦子さんがいらしていたのと、なにより、ボラセンスタッフはじめ、皆さん暖かい方々ばかりだったから。	30代	男性	会社員
015	ボランティアバスの行き先が七ヶ浜だったため。	30代	男性	公務員・ 団体職員
016	平成21年4月に北海道から単身赴任で宮城県に行き、4月下旬に多聞山を訪れた際、景色の素晴らしさに感動した。また、8月上旬には国際村へ行き、展望台から見た海と砂浜のキレイさに感動した。その後は七ヶ浜町が気に入り、毎週、土日祝日は七ヶ浜で海釣りをしていたので、釣り竿からスコップに持ち替えただけのこと。	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	会社(NTTコミュニケーションズ)の復興支援活動の選定場所が七ヶ浜町であった。社の選定理由は、先遣部隊が東松島と七ヶ浜を視察し①従業員の安全確保②首都圏からのアクセス③VCの受け入れ応対を重視し七ヶ浜にしたと聞いている	40代	男性	会社員
018	ボランティアバスの行き先が七ヶ浜町だったから。	40代	男性	公務員・ 団体職員

019	インターネットなどで検索し、大学生協という団体がボランティアを募集していることを知りました。その時に活動場所として訪れたのが七ヶ浜町であり、その時に初めて七ヶ浜町を知りました。 大学生協は4月中旬から5月上旬まで、団体としてメンバーを入れ替えながら連続して活動していました。それまで避難所などでボランティア活動をしていた地元の高校生たちが学校が始まるということで、七ヶ浜町で団体として初めて受け入れていただきました。	20代	男性	学生
020	長電ボランティアツアーで初めてボランティアに参加しましたが その活動場所が七ヶ浜でした。	30代	男性	医療従事者
021	実家がここだからです(^_^)	30代	女性	会社員
022	受け入れ体制(組織・道具)が整っていたので。	30代	男性	会社員
023	・在住地域問わず、受け入れていた。※仙台市内でも、その地域に住んでいる住民限定というところもあった。 ・他の地域でも活動したが燃料代がかかり、初期の段階で継続的にできる地域を探した。※自宅より近かった。 ・親戚の家の近くも考えたが、家が無いと言う現実を受け入れることが怖くて行けなかった。	40代	女性	会社員
024	会社(NTTコミュニケーションズ)の復興支援先が七ヶ浜だった為。	50代	男性	会社員
025	初参加は会社選定先だった。その後、単独参加を開始した。当初は他の被災地も、と考えたが、当時住んでいた仙台からのアクセスが良かった。単独参加可能。受け入れ頂いたボラセンの雰囲気も、過度なプレッシャー？を感じる事無く、暖かさを感じた。	50代	男性	会社員
026	ボランティアセンターの星さん、国際村村長の星さんに出会ったので。	50代	女性	無職
027	以前活動していたボラセンの閉鎖。 岩手県で活動していたとき、寒くてカゼをひいてしまった。	30代	男性	会社員
028	町民でもありバイクなので遠くに行けない 個人的な理由	70代	男性	その他 シルバー人材センター 派遣
029	ゴールデンウィークの多忙な時期にも関わらず、受け入れてくれたのが七ヶ浜町だったからです。	40代	男性	会社員
030	何もできなくていいただ ボランティアしたかったから よどんだ空気を入れ替えたかった	30代	男性	無職
031	1 個人単位でも参加をいち早く受け入れてくれたこと。 2 同じ宮黒管内の町村であること。継続しなければならぬと考えたとき、移動距離が比較的に短いこと 3 ボラセンのスタッフが集まってきたボランティアをスムーズに活動させていたこと。	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	募集していたところの中から、なんとなくです。	20代	男性	無職
033	多賀城(知人、息子が住んでいた)に始まり、仙台(泉東)と活動したが、落ち着いて来た(実際には、活動が制限されてボランティアさんが余るような状況になっていた)為、近場の七ヶ浜に活動の場を移しました。 注)仙台東部ボラセンでは、100人位の方が帰されるような日が続きました。(活動はこれだけです。お待ちいただいても!!)	70代	男性	無職
034	仙台のボランティア 2011年12月で中止になった。 12年4月にたまたま七ヶ浜にきたらここではまだボランティアをやっていたので引き続き活動した。	60代	男性	無職
035	消去法です。 日帰りで行ける所を絞ったら、バルプランニングの七ヶ浜由紀のツアーしかなかったため。	30代	男性	会社員

NO	3. ボランティア活動を長期間継続されたり、繰り返し参加されたりしたのは、どのような理由からでしょうか。	年齢	性別	職業
001	ボランティアの仲間ができたから	50代	男性	自営業/ フリーランス
002	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから	40代	男性	会社員
003	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティア活動が楽しかったから	40代	男性	会社員
004	納得できる復旧の段階まで活動したかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	30代	男性	会社員
005	ボランティアの仲間ができたから、被災者と強いつながりができたから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから、ご縁ができた方々とずっと関わるのが自分のスタイルだから。	50代	女性	会社員
006	ボランティアの仲間ができたから、自由な時間があったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	30代	男性	会社員
007	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、被災者と強いつながりができたから	40代	女性	会社員
008	納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから、ボランティア活動が楽しかったから	50代	男性	無職
009	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、ボランティア活動が楽しかったから	50代	男性	公務員・ 団体職員
010	ボランティアの仲間ができたから、ボランティア活動が楽しかったから、自由な時間があったから	40代	男性	会社員
011	ボランティアの仲間ができたから、被災者と強いつながりができたから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	40代	男性	会社員
012	ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、自由な時間があったから	50代	男性	会社員
013	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから、ボランティア活動が楽しかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから、せっかく助かった命を自ら断とうとするのを何とか食い止めたかった	40代	男性	会社員
014	ボランティアの仲間ができたから、被災者と強いつながりができたから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから、復興の経過具合がわかるのがたのしい	30代	男性	会社員
015	自由な時間があったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	30代	男性	公務員・ 団体職員
016	ボランティアの仲間ができたから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	①被災者でもある現地スタッフの仕事量を軽減する必要性を感じたため②現地の状況をライブ発信し続けることでボランティアの裾野拡大に繋げるべきと感じたため	40代	男性	会社員
018	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティア活動が楽しかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	ボランティアの仲間ができたから、自由な時間があったから、七ヶ浜ボランティアセンターのスタッフやリーダーの方々の人柄がとてもよく、活動しやすい雰囲気だったから	20代	男性	学生
020	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから	30代	男性	医療従事者

021	ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから、七ヶ浜に貢献したかったから	30代	女性	会社員
022	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから	30代	男性	会社員
023	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、震災後から9か月間自宅待機となり、その時間を復旧・復興に使いたかったから。	40代	女性	会社員
024	納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから	50代	男性	会社員
025	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、自由な時間があったから	50代	男性	会社員
026	ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、被災者と強いつながりができたから、自由な時間があったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	50代	女性	無職
027	ボランティアの仲間ができたから、ボランティア活動が楽しかったから、うさぎと遊びたいため	30代	男性	会社員
028	ボランティアの仲間ができたから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、ボランティア活動が楽しかったから、自由な時間があったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	70代	男性	その他 シルバー人材センター 派遣
029	自由な時間があったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	40代	男性	会社員
030	ボランティアの仲間ができたから	30代	男性	無職
031	納得できる復旧の段階まで活動したかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	自由な時間があったから	20代	男性	無職
033	被害が甚大でとても帰れる気持ちにはなれなかったから、納得できる復旧の段階まで活動したかったから、最初から長期や継続的な活動を覚悟していたから	70代	男性	無職
034	ボランティアの仲間ができたから、被災者と強いつながりができたから、ボランティア活動が楽しかったから、七ヶ浜のボランティアは仙台市のそれに比べてやりがいがあった。	60代	男性	無職
035	ボランティアの仲間ができたから、ボランティア活動が楽しかったから、ボランティアセンターがとても来やすい	30代	男性	会社員

NO	13. ボランティア活動そのものについて伺います。ボランティア活動に際し、嬉しかったこと、感動したことなどをお知らせください。	年齢	性別	職業
001	被災者の方に受け入れていただけたのが、うれしかったです。	50代	男性	自営業/ フリーランス
002	他県から来て頂いたボランティアさんが継続して頂いた事またそのボランティアさんとお逢い出来る事	40代	男性	会社員
003	七ヶ浜町がプライベートでも訪ねてみたくなるほど美しい町だった。	40代	男性	会社員
004	まず、自分の気持ちが落ち着いた。 何もしないで居るのが嫌だった。 次に現場で被災者の方へ実際に価値提供できているという実感を得られて、参加して良かったと感じた。 それから、運営側に立って、同じような志の方々をバックアップする活動に従事でき、手応えを得られた。	30代	男性	会社員
005	国際村の集会所を訪問時、毛糸を持参しました。津波で皆流され趣味の編み物もできなくなった方々には、嬉しいものだったようです。 帰宅し、しばらく経ってから仮設の方から毛糸で編んだ帽子とマフラーが送られてきました。感動し涙が出るほど嬉しかったです。	50代	女性	会社員
006	人を手伝うこと。大好きな七ヶ浜の復興をすこしだけでも手伝いたかった。	30代	男性	会社員
007	ボランティアセンターの方に親切にいただいたこと。 仲間が出来たこと。 無力な自分たちでも必要とされていることが分かったこと。	40代	女性	会社員
008	自分自身が楽しく・楽しく感じることも、支援させて頂いた他者の喜びを感じることで、利己的以上の喜びを感じることができた♪	50代	男性	無職
009	活動そのものが直接的に嬉しかったり感動したり、ということは殆どありません。 定期的にボランティア活動をする、という生活スタイルは自分自身の気持ちに張りをもたらす、より充実した人生になるという感覚がありました。	50代	男性	公務員・ 団体職員
010	同じ志を持った人々が集まり、無償で支援・活動をする事に感動します。	40代	男性	会社員
011	・少しでも復興の歩みを共に出来たこと。 ・同じ気持ちで自分の時間を復興ボランティア活動に費やす仲間が出来たこと。 ・大自然の驚異、その恐ろしさを実感できたこと、その復興を地道に実現する人間一人ひとりのまとまった時のチカラを実感できたこと。	40代	男性	会社員
012	自分の活動と復興の状況がリンクして、自らの活動を振り返る事が出来た事。微力以下のお手伝いしかできなかったと思いますが、それでも関われる事が出来た事は至上の喜びです。	50代	男性	会社員
013	地元の方々の笑顔を見られるのが一番嬉しい。 知っている人とバッタリあった時	40代	男性	会社員
014	活動を通じて、普段知り合えない方々となつなげられたこと。 あと、七ヶ浜の田んぼが復興し、復興米がとれたこと！ 長渕悦子さんと、活動を通じて知り合えたこと。	30代	男性	会社員
015	同じ目的、同じ方向に向かって活動する仲間がたくさん出会えたこと。	30代	男性	公務員・ 団体職員

016	嬉しいことはあまりないが、活動先で依頼主から感謝されたことと同じ思いを持つ仲間と知り合えたこと。	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	2011年夏の炎天下の外作業はケガ・熱中症・毒虫などに配慮しながらの活動でした。特に体力・水分の消耗は想像より早いため活動時間はAM90分、PM90分と限られていました。その日は通学路の側溝に溜まったヘドロの掻き出しでしたが深さが胸まであり100人でも50m程しか清掃できなかつた。ヘドロとともにアルバムやぬいぐるみ、携帯電話や電化製品、食器、子供の履きなど生活感溢れるものが沢山出てきた。たかだか3時間の活動で心身ともにとても疲労困憊しました。全身どろどろの状態です。その日の作業を終え、日が傾きかけた壊滅した沿岸の集落部分からボランティアセンターに車で帰還する際、ちょうど小学校の下校時刻と重なりました。集団下校していた低学年の子供4人が、車に乗った僕たちボランティアに気付くと、彼らは笑顔で手を大きく振ってくれました。たった50mの撤去活動の一翼しか担えなかつた自分にずっと手を振ってくれました。情けなくて恥ずかしかつたけど僕も車の窓から笑顔で手を振りかえしました。疲れたなんて言っていられない。自分に出来る限りの事はやろう、と改めて思い直した日でした。	40代	男性	会社員
018	地元の方に喜んでいただけたこと。町が少しずつ綺麗になったこと。	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	・ボランティア活動中にお会いした七ヶ浜の方々に感謝のお言葉を頂けたこと。 ・七ヶ浜の海岸がきれいになり、菖蒲田浜で海まつりを行うことができたこと。 ・自分も活動させていただいた農地(畑・田圃)が復旧に向かい、作物が育ち、収穫した作物を食べることができたこと。	20代	男性	学生
020	七ヶ浜のボランティアセンターでは何度か訪れると顔を覚えていただき行った時には「また来てくれたね」と笑顔で迎えていただけたのが一番嬉しかったです。夏の暑い中細かいガレキを拾い続けた阿川の田んぼに苗が植えられて一面に青々とした光景を見たときは本当に感動しました。今もその光景ははっきりと覚えています。 あと地元の方との意見交換会に参加させていただいた時に 地元の方から「震災後は自分のことで精一杯で他のことは何もできなかったが 全国からボランティアが集まってきてくれていることは本当にありがたかつた。今まではボランティアが活動していたら車の中でありがたいと手を合わすことしかできなかったが これからは自分たちの街のために自分たちがボランティアに参加して復興していく」というお話を伺いました。 ボランティアに来たら 微力ではあるが無力ではないとよく聞きましたがまさしく そのように感じました。	30代	男性	医療従事者
021	人と人との絆を感じ取れたこと 助け合うことの素晴らしさを目の当たりにできたこと	30代	女性	会社員
022	学生達がどこの現場でも、進んで作業をしている姿に感動した。	30代	男性	会社員
023	・泥カキに入ったお宅が、再建されお呼ばれされたこと ・名前もガムテープでしか貼っていないような人間に、(作業先の家主さんの家が)落ち着いたらいつでもいいからまた来てね、と声をかけられた。 ・師範代をはじめとするボランティア語り部 ※漂流物がなくなり、ただ空地のゴミ拾いと化する中、この企画は本当に良かったと。 ・作業後のマッサージ	40代	女性	会社員
024	始めて七ヶ浜を訪れた初めての現場(吉田浜の個人宅)でお会いした家主のお婆さんの前向きな笑顔に元気をいただき、帰り際に涙を流しながらお礼だと握手された時。	50代	男性	会社員
025	自分が関わった場所が、復興に向けて着実に変わった所を、自分の目で確認出来たこと。	50代	男性	会社員
026	避難所が閉鎖されたとき。仮設住宅から高台移転や町営住宅、自宅再建と将来が見えてきたとき。	50代	女性	無職

027	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギと仲良しになれたこと ・地元の方々と知り合って、交流をもてたこと ・現職の会社の社長が宮城出身で、ほめられたこと 	30代	男性	会社員
028	日本全国海外からも多くの人たちがボランティア活動に来てくれた事	70代	男性	その他/シルバー人材センター派遣
029	家主(依頼主)からお礼を言われた時	40代	男性	会社員
030	人前で明るく振る舞い、笑った。 出会っただけでは信頼関係を結べない このご縁を大切にしよう	30代	男性	無職
031	被災者から、自分たちの活動が子供たちにも良い影響があったとの言葉を聞いた時	50代	男性	公務員・団体職員
032	覚えていて下さった方がいたこと。 町並みが変わっていくこと。 町民の方々の笑顔がみられたこと。	20代	男性	無職
033	嬉しかったこと:多くの方々がボランティアに来て呉れること。多くの出会い!! 感動したこと:特にありません。悲しみに繋がります。	70代	男性	無職
034	あまり多くて書き入れないが、しいてあげれば、災害にあわれた方から元気をいただいた。	60代	男性	無職
035	着ぐるみ含めて色々な経験ができたこと。 米やえだまめが収穫できたこと。 瓦礫の山がなくなったこと。 友だちがふえたこと。	30代	男性	会社員

NO	14. ボランティア活動に際し、困ったこと、嫌な思い、不満に感じたことをお知らせください。	年齢	性別	職業
001	とくにありません。	50代	男性	自営業／フリーランス
002	震災当初ボランティアに来ているのに写真を撮られる方 装備が不十分でケガをする方 装備をセンターから借りれば良いと考えて参加される方	40代	男性	会社員
003	交通の利便性くらい	40代	男性	会社員
004	いい面もあるし、ごく一部の人だということを前提に。 「内輪の盛り上がり」、「先輩面するリピーターのボランティア」、「身勝手な振る舞いをする方」が醸し出す空気感を調整するマネジメントに苦勞した。特に身勝手さは、本人に他意はないにせよ、辟易した。 震災直後は自称アーティストが続々と集まり、演奏させると迫ってくるが多かった。静かにして欲しかった。「おれはボランティアなんだ！」と威張ったり、運営に細かく指導したりしようとするタイプの方も結構いた。アドバイスとしては非常にありがたいが、見当違いの批判になると、手に負えない場合があった。	30代	男性	会社員
005	自由に仮設の方々に会えないこと。	50代	女性	会社員
006	なし	30代	男性	会社員
007	途中から高速道路の補助が無くなったこと。でも、その高速料金も道路復興の資金源だと思うと仕方ないと思いました。	40代	女性	会社員
008	特にはございません。	50代	男性	無職
009	七ヶ浜町でのボランティア活動に際して、困ったこと、嫌な思いなどをしたことはありません。他の地域での活動では、ボランティアセンターのスタッフあるいはリーダーといった立場の人が現場におらず、ボランティアだけに委ねられている所があり、何か迷った時に質問することが出来ず困ることがよくありました。	50代	男性	公務員・団体職員
010	特にありません。	40代	男性	会社員
011	特になし。	40代	男性	会社員
012	特に有りませんが、時間の経過と共に(いまさら)と、ニーズを出し辛くなっている方がいないか心配です。	50代	男性	会社員
013	NPO、団体、個人、地元の方々の間でいざこざが起きたのを見た時、地元の人達を上目線で見たりするのを目の当たりにした時。	40代	男性	会社員
014	年月がたつにつれて、ボランティアの質が下がってきているように感じる。 意識というか、マナーとかが。	30代	男性	会社員
015	某団体の行動に辟易しました。せっかく分別したものを全て一緒にして海岸に捨てる。ボランティアセンター関係なしに活動していたこと。その団体にお金を貸し、いまだに返金がないこと。	30代	男性	公務員・団体職員
016	たくさんあってキリがない。ただ、当時は「不満を言っても前に進まない。」という気持ちだけでやっていた。	40代	男性	公務員・団体職員

017	<p>▼提案しなかったが、遠慮して言えなかったこと(2011年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフによる現場活動模様の撮影記録 ・ボランティア参加者データベース作成 <p>▼現場作業リーダーを依頼されることに対して感じていたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誇り。信頼を裏切らないための緊張感も大きかった <p>▼現場作業リーダーをしていて困ったこと(=注意していたこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場作業中 <ul style="list-style-type: none"> －他現場のリーダーが当日リーダーの駄目出しをしていた事があった。 ・センタースタッフ、町民ボランティアとのやりとり <ul style="list-style-type: none"> －現場での緊張感を屋内スタッフに崩された事があった(笑)(2012年) ・個人、団体ボランティアさんとのやりとり <ul style="list-style-type: none"> －指示を聞かない御年輩(遠方からの使命感に燃えた方に多かった) －体験型の大学生(高笑い、瓦礫もってVサイン写真、履歴書ねらい、出会い狙い) ・依頼者さん ーなし 	40代	男性	会社員
018	活動資金の協力を求められ貸したが、期限1年以上過ぎても返してもらえず悲しい。	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	・七ヶ浜の復旧・復興という同じ目的に向かって活動しているにもかかわらず、団体や個人間での考え方や活動の仕方の違いが原因で問題になってしまったこと。	20代	男性	学生
020	震災直後はその日その日の活動で周りが見えずに精一杯だったと思いますが、少し落ち着いてきたときに現場での緊張感がゆるんだり、目的意識がずれてみえたり、ちよつとしたことで誤解が生じたりすることが残念だったと思いました。	30代	男性	医療従事者
021	あまりないです	30代	女性	会社員
022	特になし	30代	男性	会社員
023	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地ということを利用し、人をだますような行為・それに加担した団体があったこと。 ・それぞれの地域のやり方があるにもかかわらず、自分の工程を押し通そうと活動されたこと。 ・家屋を再建する・しないにもかかわらず、荒い作業を行われたこと。 ・被災した家屋内に泥で落書きがされてあった(明らかに被災地観光的なものなので、ボランティアの活動行為とは異なりますが……)。 ・時間がたつにつれ、あの光景がなくなり恐ろしさ・恐怖が消えた景観内でのボランティアの態度の豹変。危機感がなく、ただの空き地感覚で立ちションする連中が増えた。 	40代	女性	会社員
024	特にはありません。	50代	男性	会社員
025	直接的な事は、自分が鈍感なせいかな? 特にはありません。	50代	男性	会社員
026	ボランティア同士のごたごた。	50代	女性	無職
027	うさぎがいなくなって、さびしくなった。	30代	男性	会社員
028	真夏の暑さの中と厳冬の寒さの中での野外作業はさすがにきつかった	70代	男性	その他/シル バー人材セ ンター派遣
029	被災者本位の活動ではなく、自分の利益だけで活動する人と一緒になった時	40代	男性	会社員
030	自分の弱さをいやというほど知った	30代	男性	無職
031	回答なし	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	回答なし	20代	男性	無職
033	身勝手な行動を取るボランティアさんがいたことに不満を感じた気持ちが嫌でした。そんな行動も容認して活動を広げて行くことが大切であった。	70代	男性	無職
034	”NPO”は”災害ボランティア”には基本的になじまないと思う。	60代	男性	無職
035	とくになし	30代	男性	会社員

NO	15. セツ浜町のボランティアセンターに対するご意見を伺います。運営について、よかったと思う点、悪かったと思う点をお書き下さい。	年齢	性別	職業
001	抑制が効いていて、気配りがあって、すばらしいと思いました。	50代	男性	自営業/ フリーランス
002	(よい点) リピーターボランティアさんの意見を聞いてそれを取り入れる体制だった事 (悪い点) リーダーミーティング中脱線が多い事	40代	男性	会社員
003	皆さんが明るく元気に振る舞っていたこと	40代	男性	会社員
004	よかった点は上手にゲメインシャフト化できた点。 仲間意識の醸成がうまく、表現は悪いが、「集客能力」は素晴らしかった。 悪かった点はビジョンの無さ、マネジメントの不在。 アメンバー型組織として充分機能していたという珍しいケースだが、強いて言えば、そこに確固たるビジョンやゲゼルシャフト的要素があればよかった。	30代	男性	会社員
005	ボランティアにやってほしいことが一目瞭然。仕事しやすい。しかしある点自由さが ない。	50代	女性	会社員
006	よかったと思います。新しい人が来るときに簡単にはじめられる。もうちょっとセツ浜 人が加わったら。	30代	男性	会社員
007	他のVCに行っていないので良くわかりませんが、運営がしっかりしていて、設備、機 材も整備されていてボランティア活動しやすかったです。	40代	女性	会社員
008	「おらほのラジオ体操」をみんなでやって、誰かが代表して今日の一言を言っていた こと。	50代	男性	無職
009	よかった点・・・上記 14.の答えと関連しますが、どの活動現場でも必ずボランティアリ ーダーが立ち会っていたことは非常に良かったと思います。また、常に家族を迎え 入れるかのような雰囲気でもボランティア参加者に接してくれたことも、何度も通いたく なった理由の一つです。 悪かった点・・・特にありません。	50代	男性	公務員・ 団体職員
010	よかった点 女性のスタッフがほとんどで、とても優しく接していただきました。 やはり女性ならではのホスピタリティで老若男女問わずとても活動しやすいところだ と思います。 また、社協ーボラセンーRSYーボランティアリーダーとがうまく連携し、 運営がしっかりしていて、安心して活動できます。 悪かった点 特にありません。	40代	男性	会社員
011	・まず、まとまりがあること。 ・リピーターのボランティアさんを各作業チームのリーダー人員として活動してもらっ ていたこと。 ・車や資材が豊富だったこと。 ・ボラバスや企業ボランティアなどの大規模人員の受け入れに積極的だったこと。	40代	男性	会社員
012	次もセツ浜に来たい！と思わせる運営は素晴らしいと思います。 悪い点は、特に思い浮かびません。	50代	男性	会社員
013	知っている範囲ではボラセンとして一番の理想型ではないでしょうか？ ただ 1 年過ぎた辺りから常連の参加者等で怪我が目立ち、注意不足し、油断してい る姿がちらほら見受けられた。	40代	男性	会社員
014	まとまりがあったこと、暖かい雰囲気があったこと。 スタッフ間の連携がとれていて、非常にスムーズに活動できたのはよかったと思いま す。	30代	男性	会社員
015	RSYがすぐに入ったこともあり、センターの方々の動きが非常に良かったと思いま す。マッチングもスムーズでしたし。ただし、個人ボランティアの金銭的被害よりも自 分の利益を重視したスタッフがいることは哀しいことです。	30代	男性	公務員・ 団体職員

016	ボランティア活動自体、初めてに近いものだったため、善し悪しはわからないが、活動する人に対して気持ちよく作業ができるよう様々な配慮を行っていたことが良い点だと思います。 ただ、それに甘んじていた人間もおり、ワガママ、支援物資の私物化などをしている者に対し、注意できなかったことが悪い点だと思っています (その者の人間性の問題であることは十分理解しています。)	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	悪い点、特になし。良い点、以下の通りたくさん。 ・思いやり……自身が被災した状況でありながらのボランティアの達成感を損なわない配慮。たとえば、節度ある行動を促しながらの被災者ニーズへの橋渡しの妙には感服 ・即断即決……役所の伺いを待たず正しい信念に基づき、スピーディな判断・柔軟な対応 他者の意見を柔軟に取り入れる懐の深さと改善実行力 ・安全配慮……力を抜かせつつ緊張感を与えられ、かつ集団をマネジメントできる現場リーダーを選抜 ・ゴール意識……30分単位、3日単位、3週間単位といった短期・中長期的なゴールを意識したマネジメント ・謙遜とリレー……謙遜と感謝の姿勢。道具洗浄オペレートに代表されるリレー意識	40代	男性	会社員
018	活動費名目に複数のボランティアから多額のお金を借りて約束どおり返さない者がいることを知りながら、それを黙認し受け入れている。個人ボランティアの被害よりも町益を優先されるのは、とても残念。そんな悪質な者に復興支援してもらっても、町民の皆さんが喜ぶのか疑問に思います。	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	スタッフの皆様が親しみやすく、とても好印象です。 外作業ではリーダー・サブリーダーの方がいることで初めてでも活動しやすかったです。	20代	男性	学生
020	七ヶ浜町ボランティアセンターに対する意見は「感謝」のみです。 強いて追加であげるならばよかったと思う点は訪れるボランティアが町を好きになり愛着を持って再び訪れるようになることで末永い復興支援ができそうなこと。 悪い点というか こうすればと思うのは ガレキの撤去だけではなく もっと農業支援や漁業支援など町の直接的な復興支援も行えれば さらによかったかなと思います。	30代	男性	医療従事者
021	システムがしっかりしてただけでなく、皆さんが挨拶してくれたり、ありがとう声をかけてくれたり。思いやりがとても表に出ているボラセンでした。 悪いところは思いつきません。	30代	女性	会社員
022	私が参加した'12年6月の時点で、すでにボラセンが組織化されており、指示系統が整っていたのが素晴らしかった。	30代	男性	会社員
023	～良かった～ ・初期段階でも、県内外問わず受け入れられていたこと。 ・初期、地域の中学生・高校生が率先して、運営に参加していたこと。 ・どうしていいかわからない状況下に中だったので、他地域を悪く言うつもりはありませんが、運営が乱雑でした。7VCは私がお邪魔した中ではしっかり運営指示・分担がなされていたと思います。 ～悪かった～ ・当初現場までの地図が、7VCから現場までではなく、地元の人しかわからないピンポイントの地図だったこと。 ・結果的に良くなかったになってしまいますが、黄色い屋根クラブ的喋り場・飲酒場はよくなかったかなと。(私も加担していました。反省しています。) ・昼休みの休憩中のイベント(コンサートとか)は、控えるべきかな、と。 ※休憩は休憩で。ボランティアとして活動している人を応援しに歌いにくるのも、ボランティア同士として気持ちはよく分かるので、結局見に行かざるを得ない状況に……。そのため早飯・寝なしで午後の活動に支障が……。気持ちはありがたいんですけどね。	40代	女性	会社員
024	ボランティア受け入れの懐の深さに感謝しています。	50代	男性	会社員

025	また来たいと感じさせる雰囲気があるといます。 気安く声を掛けて頂ける、心配して頂ける。些細な事でも安心して参加出来る雰囲気だと思っています。	50代	男性	会社員
026	ボランティアセンターのミーティングが毎週行われていて、今、ボランティアに何が求められているか、今後の活動はどのようになるか、理解できた、また私たちの意見も取り入れられるという運営は、良かった。 悪かった点は思い付きません。	50代	女性	無職
027	浜風いりり家移転後、ウサギが立入禁止になってしまったこと	30代	男性	会社員
028	人間関係が素晴らしい	70代	男性	その他シルバー人材センター派遣
029	どんな人に対しても平等であること 人のさばき方が上手	40代	男性	会社員
030	ない	30代	男性	無職
031	<長所>大量のボランティア活動希望者を受け入れることが出来るコーディネート力 <短所>見当たらない	50代	男性	公務員・団体職員
032	回答なし	20代	男性	無職
033	スタッフの皆さんの対応が素晴らしい ボランティアさんに対しても、住民の方に対しても、良く聴き良く教えて相手の立場で対応して頂ける。反応も速い。 多くの方々の意見も取り入れてとのことと思いますが、そういった環境が素晴らしい。	70代	男性	無職
034	良い事ばかり。悪いことなし。	60代	男性	無職
035	雰囲気の良さ。ボランティアに対しての感謝の気持ちの強さを感じる所。 むちゃぶりも含めて楽しいと思えるところ。	30代	男性	会社員

NO	16. ボランティア活動のご経験について伺います。東日本大震災以前に、災害ボランティアの経験はある方は、災害名と活動地を教えてください。	年齢	性別	職業
001	なし	50代	男性	自営業／フリーランス
002	なし	40代	男性	会社員
003	阪神大震災 宝塚市	40代	男性	会社員
004	中越沖地震@長岡市、2日間。	30代	男性	会社員
005	なし。	50代	女性	会社員
006	なし	30代	男性	会社員
007	なし	40代	女性	会社員
008	なし。	50代	男性	無職
009	なし	50代	男性	公務員・団体職員

010	なし	40代	男性	会社員
011	2010年夏:秋田・岩手県境の大雨洪水災害時(家屋浸水)の復旧活動	40代	男性	会社員
012	なし。	50代	男性	会社員
013	なし	40代	男性	会社員
014	なし。	30代	男性	会社員
015	・阪神淡路大震災:神戸市 ・東海豪雨:名古屋市西区 ・8月末豪雨:名古屋市守山区	30代	男性	公務員・ 団体職員
016	なし	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	なし	40代	男性	会社員
018	なし	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	なし	20代	男性	学生
020	2004年 新潟県中越地震 新潟県長岡市	30代	男性	医療従事者
021	なし	30代	女性	会社員
022	なし	30代	男性	会社員
023	ありません	40代	女性	会社員
024	なし。	50代	男性	会社員
025	なし	50代	男性	会社員
026	なし	50代	女性	無職
027	なし	30代	男性	会社員
028	なし	70代	男性	その他 シルバー人材 センター派遣
029	新潟県中越地震	40代	男性	会社員
030	なし	30代	男性	無職
031	なし	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	なし	20代	男性	無職
033	なし	70代	男性	無職
034	なし	60代	男性	無職
035	なし	30代	男性	会社員

NO	17. 東日本大震災時に、他のボランティアセンターで長期または継続的に活動した方は、その場所を教えてください。	年齢	性別	職業
001	なし	50代	男性	自営業/ フリーランス
002	松島・塩竈・石巻・南相馬・関上	40代	男性	会社員
003	なし	40代	男性	会社員
004	多賀城市。	30代	男性	会社員
005	なし、	50代	女性	会社員
006	なし	30代	男性	会社員
007	なし	40代	女性	会社員
008	岩沼、気仙沼、釜石、南三陸	50代	男性	無職
009	NPO 法人災害復興支援ボランティアネットの運営する南相馬市ボランティア活動センター NPO 法人 DSP 災害支援プロジェクトの運営する DSP ボランティアセンター (2012年7月より同センターのスタッフです)	50代	男性	公務員・ 団体職員
010	・石巻仮設住宅 ・関上地区(関上中学校付近)	40代	男性	会社員
011	名取市	40代	男性	会社員
012	関上地区	50代	男性	会社員
013	二本松浪江町仮設住宅 南相馬萱浜・原町・鹿島・小高地区、浪江町	40代	男性	会社員
014	なし	30代	男性	会社員
015	長期・継続的に活動した場所はありません。 いろいろな場所を見たかったからです。	30代	男性	公務員・ 団体職員
016	なし	40代	男性	公務員・ 団体職員
017	以下、それぞれ数日のみだが活動実績あり。宮古、釜石、陸前高田、気仙沼、石巻、名取。長期は七ヶ浜のみ。	40代	男性	会社員
018	なし	40代	男性	公務員・ 団体職員
019	なし	20代	男性	学生
020	南三陸町ボランティアセンター 復興浜団(福島県南相馬市) 栄村ボランティアセンター「結い」(長野県栄村 3/12 長野県北部地震被災)	30代	男性	医療従事者

021	なし	30代	女性	会社員
022	・南三陸町 ・名取市閑上地区	30代	男性	会社員
023	なし	40代	女性	会社員
024	2011年秋に東松島・野蒜で1日だけ。	50代	男性	会社員
025	名取市閑上地区	50代	男性	会社員
026	なし	50代	女性	無職
027	福島県・いわき市 宮城県・亶理町 宮城県・南三陸町(志津川)(1回だけ) 宮城県・気仙沼市(1回だけ) 岩手県・釜石市	30代	男性	会社員
028	なし	70代	男性	その他 シルバー人材センター 派遣
029	福島県南相馬市 宮城県岩沼市	40代	男性	会社員
030	多賀城市	30代	男性	無職
031	なし	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	仙台VC 新地町(福島)VC	20代	男性	無職
033	多賀城市ボラセン 仙台市(泉区、宮城野区)ボラセン	70代	男性	無職
034	2011年5月～11月まで、仙台市内で石巻では3～4日	60代	男性	無職
035	長期はなし。 他では、陸前高田、南三陸、南相馬で活動経験あり。	30代	男性	会社員

NO.	18. 今後の災害ボランティアについてご意見を伺います。継続してボランティア活動をするためには、どんなことが大切だと思いますか？	年齢	性別	職業
001	やはり、時間やお金などは必要だと思います。また、ある程度組織のなかで役わりを自覚して淡々と仕事をする心構えでしょうか。	50代	男性	自営業／フリーランス
002	ボランティアセンター間の横の繋がり情報交換等	40代	男性	会社員
003	その町に対する思い入れ	40代	男性	会社員
004	MVP(ミッション＝使命感、バリュー＝価値観、プライド＝活動への誇り)。これを維持するには、こう言うと身も蓋もないけど、他者からの認知と賞賛が必要。感謝の気持ちや活動の継続、活動報告などにより、MVP が途切れないようにマネジメントする必要がある。また、MVP の維持には、本人の発信能力の向上も必要。語り続けるという使命を持ってもらうことによって、継続した支援を続けていただける可能性が高まる。	30代	男性	会社員
005	人の縁を切らさない。	50代	女性	会社員
006	ウェブサイトはすごく大事です。どうやって震災の場所にきたり、何かができるが分かったり、いろんな情報を持てば安心です。	30代	男性	会社員
007	勤務先での体制、学校でのボランティア教育	40代	女性	会社員
008	一緒にボランティアした仲間との連帯感と、ボランティア先での感謝の気持ちを感じたエピソード。	50代	男性	無職
009	済みません、私自身も答えを求めています、良くわかりません。	50代	男性	公務員・団体職員
010	いかに被災者からニーズを引き出して、それに見合った支援ができるかだと思います。	40代	男性	会社員
011	<ul style="list-style-type: none"> ・地域、地元のニーズに対して敏感に反応する姿勢と順応性 ・作業だけではない、心の支援活動への理解と協調 ・人と比べず、自分の出来る範囲で、自分の出来る事を行う謙虚さ ・自分が活動させていただくという、感謝の心 	40代	男性	会社員
012	また行きたい！と思わせる受入態勢。行った(御手伝いをした)場所の 今を知らせる情報発信力。経験者として、生の現場の状況を他者に伝えてもらう事。(言葉は悪いが)参加しやすい気楽さが、(特に未経験者にとって)敷居が高いと思われがちボランティアに気軽に参加でき、現場と真剣に向き合う緊張感が、活動後の満足感や達成感を感じられる事。	50代	男性	会社員
013	金銭的体力的ペース配分を考える。 装備に備え過ぎて憂い無し！ そしてなにより地元の人本意っ！！	40代	男性	会社員
014	個人の意識と、あとは、そのまわりの人間をうまく巻き込めるか。行きたい、何かしたいと思っていても、どうしたらいいのかわからない人って、けっこういるので。 実際に作業した人が、そういった状況を拡散していくようにすると、いいと思う。あと、メディアの力を再度使って、現状の不足状況を流してもらう。	30代	男性	会社員
015	復興の時まで維持できる強い気持ち。	30代	男性	公務員・団体職員
016	気持ちのみ！	40代	男性	公務員・団体職員
017	ボランティアはあくまでニーズに応えるものであり、決して自分の達成感・使命感のためにやるのではないという基本スタンスを貫くこと。自身を犠牲にすることなく出来ることを出来る範囲で。	40代	男性	会社員
018	悪徳ボランティアのいない安心して活動できる環境。	40代	男性	公務員・団体職員
019	時間・お金・体力的な余裕に加えて、現地でのボランティアの必要性と必要なボランティアの種類についての正しい情報を得られることが重要であると思います。	20代	男性	学生

020	今回の東日本大震災でボランティア間での多くのネットワークができたと思います。 もしも今後震災があったら このネットワークが有効的な活用に結び付けられればと思います。 また継続するためには情報収集も必要ですし コミュニケーションを含むネットワーク作りも長期的には必要だと思います。 震災直後はなかなか余裕がないと思いますが長期的な視点を持ちながらの活動も必要だと思います。	30代	男性	医療従事者
021	メルマガやブログ、Facebook などの継続で、今まで来てくれたボランティアさんたちに今の七ヶ浜を伝えること。	30代	女性	会社員
022	現地の状況がわかる窓口を一本化して、 どんな道具や人手が必要かを、できるだけリアルタイムで配信して行ってほしい。	30代	男性	会社員
023	・来ていただいている・来させていただいているという、運営側とボランティア側 両者間の畏敬感 ・自己の最終着地点の設定 ・ボランティア活動費用の補てん(申請による税金の一部軽減とか) ※高速無料に悪用されては困りますが、持ち出しにも限りがあるため遠方の方が来やすいよう、一部でも補てんがあれば・・・あるいみ、被災地への肉体ボランティア活動もふるさと納税と一緒にかなと。 ・各地域社会福祉協議会の密な連携体制とデータ管理。 災害時、現場に精通したボランティアさんを派遣できる体制の連絡網の活用。	40代	女性	会社員
024	・ボランティアセンターの受け入れ体制と運営。 ・家族の理解。	50代	男性	会社員
025	被災地がボランティアを必要としている状況を、ドンドン発信しなければ、復興の一面面だけを見て『大丈夫』と誤認する人は多いと思います。	50代	男性	会社員
026	安い料金で宿泊できる場所。高速道路の割引引き。	50代	女性	無職
027	・地元の方々と仲良くする ・地元の方々に覚えてもらう ・楽しく活動する	30代	男性	会社員
028	金銭的余裕 仕事(平日)有りでも土日の活用 ボランティア活動に対するやる気	70代	男性	その他 シルバー人材センター 派遣
029	なし	40代	男性	会社員
030	物事がうまくいかない時に笑顔でいること 新しい何かにチャレンジして、いつも輝いていよう 明日に向かって生きること 心にゆとり	30代	男性	無職
031	回答なし	50代	男性	公務員・ 団体職員
032	関心をもちつつけること(FBなどで) 忘れないこと	20代	男性	無職
033	◎ 災害ボランティア時の行動: 初期(混乱状況の時): 何をやらなければいけないか、目的を持って。 混乱鎮静期: 思いやりを持って。 ◎ 継続又は、続ける気持ちを絶やささないこと(将来・別のことでも) ◎ 協力第一!!	70代	男性	無職
034	作家の曾野綾子さんも云っていますが、ボランティアは”他人の為”にするのではない。”自分の為”にするのだと云うことを基本にする。	60代	男性	無職
035	交通の便の良さ。 ボランティアセンターへのきやすさ。	30代	男性	会社員